社会とともに

社会とともに。地域社会との関わりを通してともに発展することを目指します。

社員による社会貢献活動

地域社会の一員として職場単位や個人で取り組む社会貢献活動をご紹介します。

災害支援活動

災害時の緊急支援および寄付活動についてご紹介します。

東日本大震災における資生堂の取り組み

行政や地域の方々とともに、椿の植樹を中心とした新しい街づくりに取り組んでいます。

子どものための取り組み

子どもたちの健やかな肌を守るために、洗顔方法や紫外線対策などの美容生活情報を発信しています。

資生堂社会福祉事業財団の活動

子どもと女性の福祉の向上に貢献する資生堂社会福祉事業財団の活動をご紹介します。

社員による社会貢献活動

資生堂グループの社員による社会貢献活動は、グループ全体で行っている「未来椿活動」と日本で展開している「社会貢献くらぶ」を柱としています。
未来椿活動は、創業140周年にあたる2012年度から、全世界の資生堂グループ社員が取り組んでいる社会貢献活動です。これまでの資生堂の歩みを支えていただいたお客さまや社会に対して、社員が立案・計画した活動を実践することで、感謝の気持ちを還元していきます。
社会貢献くらぶは、「何か社会のお役に立ちたい」と考える社員をサポートする組織です。常時、参加しやすい活動プログラムを提供し社会参画の機会を創出しています。

未来椿活動	社会貢献くらぶ

未来椿活動は2017年度までに、世界130の事業所で1270件の活動を行いました。
活動した社員からは、「ハンドケア活動を通じて、沢山の笑顔に出会い、嬉しい声をいただき、そのことが自分自身の喜びにつながった」「浜辺清掃や植樹など大変な重労働だったが、太陽の下、すがすがしい汗をかき、仲間との結束力が強まった。次世代に地域コミュニティとのつながりと自然環境を残していくことの大切さ、責任を再認識した」など、地域社会との絆や社員同士の結束力の強化につながっています。

日本での取り組み

今年も集結！「オープンホスピタル」でのハンドケア・カバーメイク活動

2017年10月28日（土）に、京都大学医学部附属病院にて、通院・入院中の患者とご家族、地域住民の方々等に広く開放されたイベント「オープンホスピタル2017」が開催され、今年も来場者の方々にハンドケアやカバーメイクを行いました。

通算6年目の参加となる今回は、サステナビリティ戦略部をはじめ、地元近畿エリアから大阪工場、近畿支社、近畿事業部、デパート営業本部などのメンバーが部門を越えて集結し、総勢18名で活動。247名の方にハンドケアを58名の方にカバーメイクを実施しました。ハンドケアコーナーでは、「去年も今年も来たよ！こうやってハンドケアしてくれることは本当にありがたいね」「また来年も必ず来ますね」と、これまで継続して活動してきたことで大勢の固定ファンがいらっしゃることを実感しました。カバーメイクコーナーでは、10月21日（土）に発売したパーフェクトカバー ファンデーションMVを使ったカバー方法や眉の描き方などをアドバイスしました。メイクを受けた方は「気になる部分のみカバーするだけで、きれいな肌色に変身できた」と鏡を見て笑顔になっていました。

【参加メンバーの声】
・入院されている方に、ハンドケアをしながらお顔をちらっと見ると、とてもイキイキしていました！化粧のちからを近くで感じることができて嬉しかったです。
・途切れることのないお客さまへの施術で腕の疲れは大変なものでしたが、「ありがとう」「気持ち良かったよ」の声に、日頃味わえない嬉しさをかみしめました。
・普段直接関わる機会のない他事業所のメンバーと一緒に活動ができ、とても刺激になりました。
来年もこの活動を心待ちにしている多くの資生堂ファンのために、京都に集結します！

子どもたちの記憶に残るものづくり体験「リップグロスファクトリー」を出展

資生堂ジャパン株式会社 コスメティクス事業本部 九州・沖縄事業部は、国内3工場（大阪・掛川・久喜）の協力のもと、トヨタ自動車九州株式会社さまが生産拠点の敷地内で開催する「スプリングフェスタ2017」において「リップグロスファクトリー」というワークショップ（ものづくり体験コーナー）を初めて出展しました。

毎年１万人近くの来場客で賑わうこのイベントは、地域の方々やトヨタグループの従業員さまのご家族が心待ちにしている「お祭り」です。「リップグロスファクトリー」は、開場早々に予約券が全てなくなるほどの大人気でした。

今回、小さな子どもたちにワクワクする体験を通じて、ものづくりの楽しさを味わっていただくことができました。今後も、子どもたちの記憶に残る活動を続けていきたいと思います。

咲き誇るお花が銀座を彩る！花壇ボランティア活動

品質保証部では2012年より、中央区緑のアダプト活動へ参加し、銀座の3ヵ所の花壇管理に取り組んでいます。
32人のメンバーが毎日の水やり、除草、清掃に加え、年4回季節ごとに花壇の草花の植え替えを実施。2名1組の担当表を作成し、メンバー同士の交流も兼ね、当番制で水やりを行っています。

2017年度は、2月24日（金）に「リナリア」「プリムラポリアンサ」を、5月18日（木）に「ナデシコ」「コリウス」の草花をそれぞれ3箇所の花壇に植えました。また、8月25日（金）には「ペンタス」「ニチニチソウ」を、12月1日（金）には「パンジー」「ミニハボタン」を植えました。

「今年も元気に育ちますように！」と願いながら、花壇全体の色のバランスを考えて植え付けを行いました。
これからも銀座の街並みを華やかにできるよう、愛情を込めて育てます！！

昭和大学にて「赤ちゃんからのスキンケア」サイエンスカフェ開催

資生堂グローバルイノベーションセンターは2017年10月19日（木）、昭和大学キャリア支援室と共催で全学部の４、５年生を対象としたサイエンスカフェを開催しました。
サイエンスカフェは一般的なセミナーとは異なり、研究者が参加者の輪に入って科学の話題を提供し、皆で考えながら科学への理解を深めようというものです。

当日は医学・歯学・薬学部の学生のほか、先生も加わり約20名が参加。ディスカッションでは、将来医療等の専門の場で活躍する学生の皆さんにも役立つ内容として、資生堂の「化粧のちから」」と「赤ちゃんからのスキンケアの重要性」に関する研究活動をテーマに、資生堂研究員とサステナビリティ戦略部メンバー計8名で活動を進めました。

学生たちからは、化粧で出来るQOL向上や赤ちゃんからのスキンケアをすることでアトピー性皮膚炎の発症を軽減出来ることに驚きの声があがり、「将来、働く現場で実践につなげたい！」「赤ちゃんのいる友達に教えてあげたい！」といった頼もしい声が聞かれました。また、「シミとソバカスの違いは？」「どんな美白剤が効果があるの？」「使いやすく効果のある日焼け止めが欲しい」など学生ならではの発言や意見が飛び出し、とても賑やかで盛り上がった会となりました。

アジア・オセアニアでの取り組み

芸術大学の学生に美容セミナーを開催

資生堂タイランドは、2017年11月2日に、芸術大学の3年生60名に、スキンケアとメイクアップのワークセッションを開催しました。
このセミナーは、日ごろから美と文化を学んでいる学生たちに、資生堂の技術やノウハウを活用して、美に関する知識やスキルを学んでいただき、卒業後の社会人生活に活かしていただこうというもので、学生たちからも人気の高いクラスとなっています。
当日は午前と午後の２回行い、それぞれ30名の学生のみなさんに、お肌のお手入れ方法やメイクアップの方法について実習を交えて学んでいただきました。

学生たちからは、「基本的なスキンケアやメイクアップのテクニック、知識について、多くを学ぶことができました。このような機会をいただきありがとうございました。自分の将来にも生かしていきたいです」との声をいただきました。

私たちも、このセミナーを通じて、学生の皆さんによいインスピレーションを与えることができ、とても嬉しく思います。

アメリカ・ヨーロッパでの取り組み

毎年恒例、高齢者施設での美容セミナー

資生堂スペインは、年に1度、地域の高齢者施設を訪れ、 美容セミナーを行っています。

2017年10月21日（土）に、10名の社員が施設を訪問しました。

社員は2つのグループに分かれ、それぞれスキンケアと ハンドケアの活動を行い、施設の方々にお楽しみいただきました。

未来椿活動 | 社会貢献くらぶ

社会貢献くらぶは、2005年に発足した国内の社員による組織で「資生堂 花椿基金」をはじめ、「災害義援金」「集めてボランティア」「TFT（TABLE FOR TWO）」「ボランティアメニュー」など、さまざまな活動プログラムを設けています。
社員の平日のボランティア活動にもソーシャルスタディーズデー ※などのサポート制度が適用できます。 「社員一人ひとりが社会問題解決の視点を持ち、自ら考え行動する」風土をつくり、社会参画と視野の拡がりから得られた「気づき」や「知」を業務や社内の活動に活かすことで更なる価値創造につなげます。

※年間3日を上限に、社員の社会貢献を目的にしたさまざまな活動を「社会へ出勤する日」として業務扱いとする制度

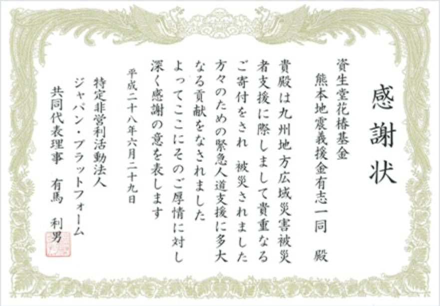
資生堂 花椿基金

「資生堂 花椿基金」は、資生堂グループ社員と社友の寄付金により、社会課題に取り組むNPOやNGO団体を支援する社会貢献活動です。
2005年の創立以来、2017年までの間に、2億6千799万5,869円を支援団体にお役立ていただきました。
社員は、毎月の給与1口100円から、退職した社友は、一口1,000円から参加しています。
運営は、社員の代表である運営委員が行い、社内への広報活動や支援団体からの活動報告「オープンカフェ」を開催しています。また、毎年審査会を開き、各団体の支援内容の評価や新規支援団体の選出を行っています。

2017年度の審査会
ジョイセフ様のプレゼンテーション

災害義援金

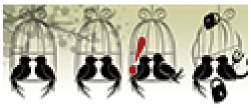
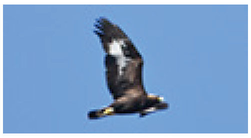
世界中で発生した自然災害に対する災害義援金として、2004年～2017年の間に5千928万6,960 円を被災地にお届けしました。 社員と社友一人ひとりの気持ちが大きな力となっています。



感謝状
資生堂花椿基金
熊本地震義援金有志一同　殿
貴殿は九州地方広域災害被災者支援に際しまして貴重なるご寄付をされ　被災されました方々のための緊急人道支援に多大なる貢献をなされました
よってここにそのご厚情に対し深く感謝の意を表します
平成二十八年六月二十九日
特定非営利活動法人
ジャパン・プラットフォーム
共同代表理事　有馬　利男

認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム様からの感謝状

2018年度花椿基金支援団体と支援内容ＰＩＣＫＵＰ

領域	支援団体名		花椿基金の支援内容
女性・子ども	全国女性シェルターネット		ＤＶ根絶活動と被害女性・母子の保護、再出発を支援
	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン		20人に1人が5歳まで生きられない途上国の子ども支援
	ジョイセフ		途上国ザンビアの妊産婦の命と健康を守る活動支援
次世代育成	資生堂社会福祉事業財団		児童養護施設や里親のもとで育つ子どもたちの進学を支援
	全国色素性乾皮症（XP）連絡会		紫外線に当たることができない難病ＸＰの子どもを支援
	ＪＨＰ・学校をつくる会		カンボジアに校舎と衛生的なトイレをつくり、若者の未来を支援
環境	WWFジャパン		インドネシアの森林再生と野生生物と人との共存を支援
	日本自然保護協会		日本の自然と絶滅危惧種の生息地の保全活動を支援
災害被災地支援	ジャパン・プラットフォーム		東日本大震災被災地の復興を継続支援
健康	日本対がん協会		がんの啓発活動とがん患者と家族を支援

TOPICS： 2018年度の支援団体が決定しました

2017年9月4日（月）に花椿基金「審査会」を汐留オフィスで開催し、2018年度の支援団体が決定しました。

■2018年花椿基金支援団体一覧 （10団体）■

(1)　全国女性シェルターネット
(2)　資生堂社会福祉事業財団
(3)　全国色素性乾皮症（XP）連絡会
(4)　WWFジャパン
(5)　セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
(6)　日本自然保護協会
(7)　ジャパン・プラットフォーム
(8)　ジョイセフ
(9)　JHP・学校をつくる会
(10)　日本対がん協会

審査会の様子
ＪＨＰ・学校をつくる会様のプレゼンテーション

TOPICS： 13年目…資生堂日焼け止め商品で、「XP」患者支援

2017年3月、色素性乾皮症（XP）患者92名の方に、資生堂グループの日焼け止め商品「アネッサ」「ドゥーエ」、「サンメディック」「アベンヌ」を提供しました。

色素性乾皮症（XP）は、遺伝子の損傷を修復する機能障がいのために、強い日光過敏や神経症状を発症する進行性の難病です。XP患者は、紫外線を受けた部分が早期にがん化する恐れがあるため、肌に日焼け止めを塗った上に紫外線防御服も着用する必要があります。

資生堂は2005年より、花椿基金の支援先である「全国色素性乾皮症（XP）連絡会」を通じ、年に1回、XP患者の方々へご希望の商品をお届けしており、今年で13年目を迎えました。

患者のご家族からは、「日焼け止め商品は、1年を通じ、XPの子どもたちの敏感な肌を紫外線や皮ふがんの発病から守ってくれるとても重要な必需品です。御社の商品を安心して子どもたちに使用させていただけますこと、心より感謝申し上げます。皆さまからの温かいご支援に感謝し、子どもたちとの日々を大切に過ごしてまいります」との感謝の声をいただきました。

※資生堂は社会貢献活動の一環として、2000年よりXP患者の方々に対する支援活動を開始し、患者ご家族を対象とするセミナー（日焼け止め商品の使用法）や、社員ボランティアによるXP患児の保育活動、花椿基金支援による全国大会の開催など、さまざまな支援活動を行っています。

TOPICS： 難病XP患者の子どもたちに社員から心ばかりのプレゼント
～紫外線セミナーなど社会貢献活動を実施 ～

2016年10月15、16日の2日間、全国色素性乾皮症（XP）連絡会第3回全国大会が、愛知県「あいち健康プラザ」で開催されました。資生堂グループからは10名の社員が参加して、
(1)ビューティーコンサルタントによる日焼け止め商品の使い方や悩みの相談
(2)サンケア製品開発の研究員による「紫外線の肌への影響と日焼け止めの最新知見」の講演
(3)XP患者と兄弟児と一緒に遊ぶこと
などのボランティア活動を実施しました。

資生堂は社会貢献活動の一環として、紫外線の影響により高い確率で皮膚がんや進行性の神経障がいを伴う難病色素性乾皮症（XP）の患者への支援を2000年より開始し、2005年からは毎年、紫外線遮断のために不可欠な日焼け止め商品（アネッサ、ドゥーエ、サンメディック、アベンヌ等）を提供しています。

また、社員・社友による有志による「花椿基金」を通じた支援を継続しています。

中部支社お客さま担任による個別相談

サンケア製品開発の研究員による講演

「TABLE FOR TWO」の取り組み

TABLE FOR TWO、直訳すると「二人の食卓」。
先進国の私たちと開発途上国の子どもたちが、時間と空間を越え食事を分かち合うというコンセプトで、対象となるヘルシーメニューを注文すると、1食分の給食が特定非営利活動法人TABLE FOR TWO International（以下、TFT）を通じて開発途上国の子どもたちへ届けられる仕組みです。

資生堂ではTFTの趣旨に賛同し、2009年7月より導入。2017年現在は、汐留オフィスと資生堂グローバルイノベーションセンターで継続実施しています。
2017年6月には、TFT活動を通じて年間一定額を寄付しているとして「シルバーサポーター」の感謝状をいただきました。

日本国内では、企業や学校など約700団体がTFTに参加し、各団体とも、TFTメニューの開発や食堂利用者への告知方法などに趣向を凝らしているようです。このためTFT事務局ではその好事例の水平展開のために「TFT総選挙」というユニークなイベントを企画・実施しています。
2016年7月にTFT主催で開催された「第2回 TFT総選挙」において、資生堂は、「メニュー部門」で、「とろとろ卵のあさりあんオムライス」を応募。投票の結果、1位との票差がわずか1票という僅差で2位を獲得し、入賞の表彰状をいただきました。

開発途上国の子どもたちへの給食提供は、子どもたちの成育を助けるだけでなく、学ぶ楽しさの気づきや学ぶ意欲の継続への足がかりとなっています。食事をしながら社会貢献できるTFTへの支援をこれからも続けてまいります。

感謝状

シルバーサポーター
株式会社資生堂様

皆さまからお寄せいただいた
TABLE FOR TWOへのご支援により、
飢餓や栄養不足にさらされている
アフリカ、アジアの多くの子どもた
ちに、温かい食事と未来への希望を
届ける事ができました。
継続的な力強いご支援・ご協力に
心より感謝申し上げます。

２０１７年６月
特定非営利活動法人
TABLE FOR TWO International
代表理事 小暮真久

TFT事務局より頂戴した感謝状

表彰状

TABLE FOR TWO 総選挙 2016
メニュー部門　第二位
株式会社資生堂様

貴社は TABLE FOR TWO 総選挙 2016
メニュー部門において"とろとろ卵の
あさりあんオムライス"にて、
TFT導入企業 650社の中から第二位を
受賞されました。
貴社の皆様の厚いご支援に、心より
感謝申し上げます。

２０１６年８月
特定非営利活動法人
TABLE FOR TWO International
代表理事 小暮真久

総選挙メニュー部門第2位受賞

TOPICS：保存食をおいしくアレンジ！「食」を通じて社会貢献

2015年11月26日（木）に、汐留オフィスの食堂委託会社である(株)LEOCのご協力のもと、賞味期限が残り1年未満の災害時用保存食を、TFTメニューとしてアレンジして提供する「保存食をおいしく食べようフェア」を開催しました。

災害発生に備えて保管している保存食は、賞味期限が迫ると入れ替えが必要になることから、資生堂では、「食料資源の有効活用」「環境への配慮」「社会貢献」を目的に、保存食活用に積極的に取り組んでいます。

7月に第1回のフェアを開催。5回目となる今回は、2種類の保存食メニューを143名の社員に提供しました。毎回おいしさにこだわり見た目にも楽しいメニューを用意し、途上国の子どもたちの給食支援につなげています。また、メニューを食べた社員には、家庭に備蓄している保存食にも応用してもらえるよう、メニューで使用した保存食とレシピのお土産を提供し、防災に対する意識啓発も図っています。

メニューを食べた社員からは、「保存食と分からないほどしっかり調理されていておいしかった」「早速レシピ通りつくってみたい」「食料の有効活用と寄付に協力できて嬉しい」などの声が寄せられました。また毎回新メニューを考案してくださる(株)LEOCの栄養士・大野さんからは、「試作を重ね、保存食のお米のぼそぼそ感をなくすよう工夫し、おいしく楽しんで召し上がっていただけるメニューを心がけました」との感想をいただきました。

※保存食の一部は、フードバンクである「セカンド・ハーベスト」にも提供しており、児童養護施設の子どもたちやDV被害者のためのシェルターなどに届けられています。

保存食アレンジメニュー「海老クリームリゾット温玉のせ」

お土産の保存食とレシピを提供

集めてボランティア活動

2005年度から全社的に使用済み切手や書き損じハガキを集め、途上国の女性と妊産婦を支援する活動や子どもたちの教育支援を行っています。
通年で活動し、夏・冬年2回のキャンペーンを実施しています。
集めた使用済み切手や書き損じハガキは、「公益財団法人 ジョイセフ」を通じて、途上国の再生自転車輸送費やお母さんと赤ちゃんの命を救う活動に、「公益財団法人 民際センター」を通じて、タイ・ラオス・カンボジア・ベトナム・ミャンマーの子どもたちのダルニー奨学金として役立てられています。
2017年8月までに114名の子どもの就学を援助することができました。
2018年に１名の子ども（支援国：ラオス中学生）の就学を援助することになります。

ソーシャルスタディーズデー

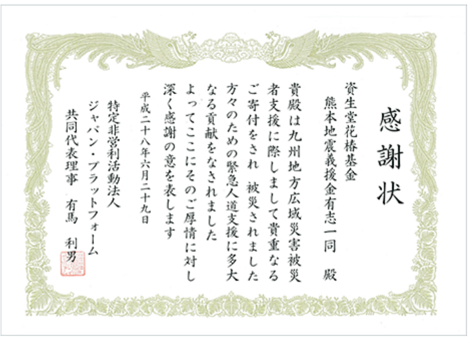
1993年から年間3日を上限に、社員の社会貢献を目的にしたさまざまな活動を「社会へ出勤する日」として業務扱いとする制度です。
各種ボランティア活動、献血、ドナー登録、地域社会との交流などに利用されています。

災害支援活動

熊本地震の被災者に向けて社員有志から義援金贈呈

2016年4月に発生した熊本地震では、揺れの強かった熊本県、大分県を中心に九州地方の広い範囲に大きな被害をもたらしました。資生堂社会貢献くらぶでは、この災害の被災者に向けてグループ社員有志から寄せられた義援金（総額2,499,500円、支援賛同者3,444人）を、「認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム（JPF）」に贈呈しました。
この義援金は、JPFの「九州地方広域災害被災者支援」のプログラムに沿って、特に高齢者、女性、子ども、障がい者などの災害弱者やジェンダーへの配慮を重視した支援活動に役立てられました。

認定NPO法人ジャパン・プラットフォームにて寄贈



感謝状

資生堂花椿基金
熊本地震義援金有志一同　殿

貴殿は九州地方広域災害被災者支援に際しまして貴重なるご寄付をされ　被災されました方々のための緊急人道支援に多大なる貢献をなされました
よってここにそのご厚情に対し深く感謝の意を表します

平成二十八年六月二十九日

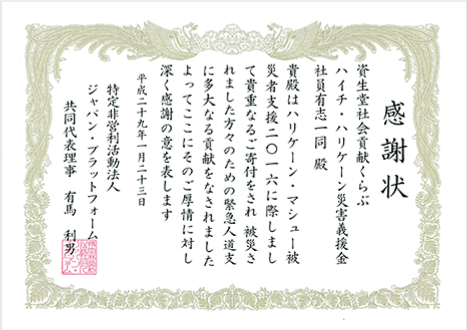
特定非営利活動法人
ジャパン・プラットフォーム
共同代表理事　有馬　利男

認定NPO法人ジャパン・プラットフォームからいただいた感謝状

ハリケーン・マシューの被災者に向けて社員有志から義援金贈呈

2016年10月「ハリケーン・マシュー」によって甚大な被害がもたらされた「ハイチ共和国」の被災者に向けて、資生堂社会貢献くらぶでは、グループ社員有志から寄せられた義援金（総額418,500円、支援賛同者837人）を、「認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム（JPF）」に贈呈しました。
この義援金は、JPFの「ハリケーン・マシュー被災者支援2016」のプログラムに沿った、加盟NGOによる緊急支援物資（食糧や浄水用の塩素タブレット、脱水症対策の経口補水液などの衛生用品や生活物資）の配布などの人道支援活動に役立てられました。

認定NPO法人ジャパン・プラットフォームにて寄贈



感謝状

資生堂社会貢献くらぶ
ハイチ・ハリケーン災害義援金
社員有志一同 殿

貴殿はハリケーン・マシュー被災者支援二〇一六に際しまして貴重なるご寄付をされ　被災されました方々のための緊急人道支援に多大なる貢献をなされました
よってここにそのご厚情に対し深く感謝の意を表します

平成二十九年一月二十三日

特定非営利活動法人
ジャパン・プラットフォーム
共同代表理事　有馬　利男

認定NPO法人ジャパン・プラットフォームからいただいた感謝状

東日本大震災における資生堂の取り組み

東日本大震災により、被害を受けられた皆さまに、謹んでお見舞い申し上げます。
資生堂グループは、ビューティー支援活動をはじめ資生堂ならではの活動を通じて、被災された方々に寄り添い、応援させていただきます。

復興支援の考え方

会社は社会とともにあり、社会の中で生かされています。社会が困難な状況にあるときに、会社は社会の一員としての役割を果たしたいというのが、私たちの思いです。
未曾有の被害を被った東北地方の復興は長い道のりになります。私たちは、人・もの・情報・技術・文化など当社の資源を生かして、被災された方々が自立されることにお役立ちできるよう、長く寄り添ってまいります。

化粧品会社として、被災された方々に少しでも元気になっていただくために、何かできないか。そんな思いから、スキンケアやメーキャップ、ハンドケアなどの美容サービスを行う「ビューティー支援活動」を、震災発生以来、女性のみならず子どもや男性にも行わせていただいています。ビューティー支援活動を通して、化粧には人の心を癒し、人を前向きにし、元気にすることができる「化粧のちから」があることを、当社は教えていただきました。

「椿」が結ぶ復興支援活動

東日本大震災から2年が経過した2013年以降は仮設住宅の環境整備や瓦礫処理などの生活再建期から、住居の自立再建やライフライン･インフラの再建、商店街や地元産業の復興など、復興期へとフェーズが変わっています。また、地域によって復興のスピードも異なります。それに伴い、被災された方々が望まれるものも変化し多様化しています。
資生堂は、お客さまやお取引先などステークホルダーの方々と顔の見える関係をつくり、丁寧な対応をすることを企業活動のスタイルとしてきました。
2013年度からは、化粧品会社だからできる「化粧のちから」を生かした活動としてビューティー支援活動を継続するとともに、当社の資源を活用しながら行政や地域の方々とともに新しい街をつくっていく活動に取り組んでいます。地域の方と顔を合わせて見つけた課題を一緒に考えて乗り越え、成果を積み上げながら確実に復興を進めていきたい。そのため、地域を絞って、新しい街づくりを支援してまいります。

なぜ、この活動をはじめたのか

「椿」が結ぶ復興支援

資生堂にとって「椿」はもともとゆかりが深く、岩手県の気仙地区、大船渡市・陸前高田市の市の花も「椿」です。 このようなご縁から、「椿」をテーマに何かお役に立てることがないかと考え、街の人と何度も対話を行いました。そこで、気仙地区では数十年前まで、各家庭において椿の実から油を搾り、食用や髪のお手入れなどに使っていたということを知りました。

また、昔から大切にしてきた椿を街の新しい産業にしたいというお考えが皆さまの中にあることや、震災前から大船渡では、椿を観光資源として扱ってこられたという基盤があるということも分かり、この活動に資生堂の資源を活用してお手伝いできることがあるのではないかと考えました。

私たちの夢～具体的なアクションに向けて～

復興に向けてこれからどんどん生まれ変わっていくこの街の新たな産業として「椿」を育てたい、それをお手伝いすることができたらこんなうれしいことはない、こんな夢を掲げています。
気仙地区、大船渡市・陸前高田市にお住いの方々と対話を行い、ともに考え、この街の皆さまが描く街づくりにお役に立てるよう、私たちも活動を進めることで夢を実現させたいと考えています。

1. 産業化に向けた取り組み

「椿」が街の新しい産業となり、観光資源としても活用できるように椿の植樹活動を毎年行っています。
2014年度からは産業化を加速させるための具体策として、日本ツバキ協会様にご協力をいただき、東京の町田から樹齢30年ものの椿を運び植樹しています。
大船渡市のご協力の下、これまでに約470本の苗木と約100の成木を植樹しています。（2017年5月現在）

椿で新たなまちづくり。今年も「椿の植樹会」　2017年5月25日、26日開催

2012年から6年目を迎える2017年は、例年の苗木の植樹と、新しいまちのシンボルツリーとしての植樹を行い、活気づく大船渡のまちづくりを応援しました。資生堂からは社員15名が参加し、社会福祉法人大洋会、大船渡市役所、一般社団法人日本ツバキ協会の皆様とともに植樹を行いました。

(1) 椿の苗木の植樹会

2017年5月25日（木）、資生堂と社会福祉法人大洋会が共催し、大船渡市福祉の里大洋会敷地内において「椿の植樹会」を実施し、32本の苗木を植樹しました。「資生堂リラクシングナイトミスト」の売上の一部と資生堂アメニティグッズ株式会社が通販カタログで大船渡の特産品を販売した売上の一部が役立てられています。

記念植樹（右から２人目は戸田公明　大船渡市長）

苗木を植樹する市の職員と資生堂社員

植樹会の参加者

(2) 椿の成木の記念植樹

2017年5月26日（金）、商業施設「キャッセン モール＆パティオ」内に、新しいまちのシンボルツリーとして9本の成木を植樹し、まちづくり会社キャッセン大船渡㈱との共同により記念セレモニーを行いました。

記念プレートの除幕式

幹巻きをする社員

記念セレモニーのようす

復興への想いを込めて、椿の植樹会を開催 2016年6月11日開催

今年も開催 「椿の植樹会」2016年6月11日開催

2016年6月11日（土）、資生堂と社会福祉法人大洋会が共催し、岩手県立福祉の里センターで「椿の植樹会」を開催しました。資生堂からは20名が参加し、社会福祉法人大洋会、大船渡市役所、一般社団法人日本ツバキ協会の皆さまと共に植樹を行いました。

(1) 椿の成木の植樹会

椿油の原料となる実の収穫を早期に行えるよう、椿の成木20本を植樹しました。昨年に続き、今年も日本ツバキ協会の方に樹齢30年程の成木を寄贈いただきました。

(2) 椿の苗木の植樹会

大きく、たくましく育ってほしいという想いを込めて、大船渡市長 戸田公明様、当社代表取締役執行役員副社長 岩井恒彦、大洋会理事長 木川田 典彌様と日本ツバキ協会 仲村清彦様による記念植樹を行いました。
今回の苗木の植樹には、「資生堂 リラクシングナイトミスト」の売上の一部と資生堂アメニティグッズ株式会社が通販カタログで大船渡の特産品を販売した売上の一部が役立てられています。

戸田公明 大船渡市長（右）と副社長 岩井恒彦（左）による記念植樹

急な斜面に苗木を植樹

植樹に参加した資生堂社員

産業化に向けた椿の植樹会を開催 2015年6月12日開催

「椿の苗木の植樹」 2013年7月12日開催

椿が街の新しい産業となり、観光資源としても有効活用できるように、大船渡市が主体となって産業化に向けた植樹会を開催しました。資生堂からは社員13名が参加し、地元の方とともに植樹を行いました。このとき使用した椿の苗木は、当社の活動がきっかけとなり、長崎県新上五島町から贈られたもので、この日は贈呈された1,000本のうち、約300本の苗木を植樹しました。

植樹の様子

植樹に参加した資生堂社員

植樹後

「椿の成木の植樹」 2014年6月28日開催

椿は成木になるまでに20年程度かかるため、産業化に向けては実の収穫が課題です。椿の産業化を加速させるとともに、観光資源としても有効活用できるように、岩手県立福祉の里センターに成木の植樹を行いました。資生堂からは8名が参加し、社会福祉法人大洋会、大船渡市役所職員の皆さまとともに、一般社団法人日本ツバキ協会の会員の方から東京都町田市を通じて寄贈いただいた成木40本を植樹しました。

植樹の様子

完成した椿並木

「椿の成木と苗木の植樹」 2015年6月12日開催

6月12日（金）、資生堂と社会福祉法人大洋会が共催し、岩手県立福祉の里センターで2通りの「椿の植樹会」を開催しました。
資生堂から16名が参加し、社会福祉法人大洋会、大船渡市役所、一般社団法人日本ツバキ協会、RCF復興支援チームの皆さまと共に植樹を行いました。

(1) 椿の成木の植樹会
椿油の原料となる実の収穫を早期に行えるよう、樹齢30年程度の椿の成木30本を植樹しました。植樹した成木は、この活動に賛同いただいた、日本ツバキ協会会員により寄贈されたものです。

(2) 椿の苗木の植樹会
椿の苗木40本を植樹しました。
この苗木の植樹には、2014年当社が発売した「資生堂 リラクシングナイトミスト」の売上の一部と当社の関連会社である資生堂アメニティグッズ株式会社が通販カタログで大船渡の特産品を販売した売上の一部が役立てられています。

苗木に鹿除けを設置している様子

成木の植樹の様子

植樹に参加した資生堂社員

2. 気仙地区の「椿」の認知向上に向けた取り組み

大船渡市の「三面椿」をモチーフにした おやすみ前のフレグランスを発売　2014年10月1日発売

香りは気持ちを和らげたり、リラックス感をもたらします。被災された方に、よい香りで心地よい眠りをお届けしたい・・・そのような思いから、当社のアロマコロジー研究を活かした商品開発に取り組みました。大船渡市末崎町「中森 熊野神社」にある樹齢1400 年の日本最古のヤブツバキ「三面椿」の香り成分を配合し、性別・年代を問わず、安らぎを感じていただける新しい香りを開発しました。大船渡の方々にもご協力いただき、就寝前にボディーだけでなく、空間や寝具にも使用できるフレグランスウォーター「資生堂 リラクシングナイトミスト 椿の夢」を開発しました。
当商品は2014年10月1日（水）に資生堂 Webサイト 「ワタシプラス」にて限定発売し（2017年1月に再販売）、2016年3月9日（水）に（株）三越伊勢丹の4店舗（※）にて数量限定で発売しました。
売上げの一部は、「椿の里 大船渡」の街づくりに活かされます。

※伊勢丹新宿店、銀座三越、日本橋三越本店、仙台三越

資生堂 リラクシングナイトミスト 100ml 1,512円（税込）
ボディーだけでなく、寝具や空間にもお使いいただけます。

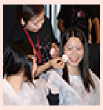
2014年10月1日（水）　資生堂Webサイト「ワタシプラス」発売
2016年3月9日（水）　（株）三越伊勢丹一部店舗にて発売

椿が結ぶ復興支援
資生堂パーラー「気仙椿ドレッシング」を発売　2014年11月10日発売

資生堂パーラーは、椿を軸にした街の復興をお手伝いする資生堂の復興支援活動に参画し、気仙地区の椿の実を原料とした椿油“気仙椿”を使ったドレッシングを11月10日に数量限定で発売しました（※）。
この椿油“気仙椿”は、原料となる椿の実からとれる種を焙煎し、搾油機を使い、人の手で丁寧に搾り作られています。焙煎した種を使うからこそ、香りが豊かで黄金色のきれいな椿油になるのが特長です。

※ 「気仙椿ドレッシング」は、資生堂パーラー 銀座本店ショップ、ＡＥＯＮグループ各社店舗のお歳暮カタログ、そして、11月17日からは特別限定として地元の「らら・いわて」で販売。
単品での取り扱いは銀座本店ショップ、「らら・いわて」のみ各1,080円（税込）

気仙椿ドレッシング　3本セット　3,240円（税込）
オニオン <200ml>2本・粒マスタード <200ml> 1本



「椿の夢 フェスティバル」の開催　2014年10月4日開催

10月4日（土）、岩手県大船渡市のリアスホールにて、「椿を軸とした街づくり」を支援する活動の一環として、当社が主催する『椿の夢 フェスティバル』を開催しました。
このフェスティバルは、産業資源・観光資源としての「椿」の可能性を、地元の若い世代を中心に体感していただくことを目的に行いました。
イベントは『五感で椿を体感する』をテーマに構成し、香りの効用や発売直後の「資生堂 リラクシングナイトミスト」の効果を解説する「香りセミナー」、椿のデザインをモチーフとした当社の商品・ポスターなどを展示した「ミニギャラリー」、椿油を使用したお料理やお菓子を紹介する「椿の食体験」などを行いました。
「椿の食体験」には、大船渡東高等学校の生徒が参加し、椿油を使った手作りのお菓子を紹介しました。

「香りセミナー」の様子

「気仙椿ドレッシング」を使った料理 スピエディーニのおふるまい

大船渡東高等学校の生徒さんによる、椿油を使った料理・菓子のおふるまい

また、復興を担う地元の若者たちの当フェスティバルへの興味喚起を目的に、高校生を対象とした「ヘア＆スキンケアセミナー」を男女別に開催し、ヘアアレンジの方法やきれいな素肌作りのポイントをご紹介しました。
イベントの終盤には、事前公募により選出した地元の若者がモデルとなり、当社のヘア＆メーキャップアーティストによる「ヘア＆メーキャップショー」を開催。
渋谷109で若者に人気のブランド「CECIL McBEE」「SLY」にコスチュームで協力をしていただき、それぞれの「なりたい私」の実現を行いました。

高校生を対象に男女別に開催した「ヘア＆スキンケアセミナー」

「ヘア＆メーキャップショー」の様子

「椿の恵 まつり」の開催　2013年11月23日開催

震災後商品化された食用の椿油の認知を拡げ、椿の産業化に向けた後押しとなるよう、椿の「食文化」に着目、椿の食体験を通じて、椿の可能性を地元の皆さまとともに体感する機会をつくりたいと考え、「椿の恵 まつり」を企画しました。このイベントでは、椿油を使った新しいお食事やお菓子のメニューを地元のレストランや和洋菓子店につくっていただき、メニューコンテストを行いました。資生堂からは資生堂パーラー銀座本店の調理長が参加し、資生堂パーラーの看板メニューである「ミートクロケット」を椿油で揚げたものを特別メニューとして提供しました。
そして地元で昔から椿油を使ってつくられていた「けんちん汁」を地元の女性につくっていただき会場で提供し、椿油を知らない子どもたちへの伝承をあわせて行いました。

メニューコンテスト

椿の搾油体験

食体験会場

食体験会場受付

大船渡保育園　園児による郷土芸能（鹿踊り）

また、別会場（大船渡の椿の観光地：碁石地区）では、産業化を行う上で重要な椿の実の収穫を体験するイベントも行いました。
大船渡の観光地である碁石地区の皆さまと一緒に行い、54kgの実を収穫しました。
収穫した実は、産業化に向けて実の収穫が課題となっている陸前高田の製油所、社会福祉法人 大洋会 青松館に寄贈しました。

実の収穫体験

収穫した椿の実

また、地元の皆さまからご要望いただいたお化粧教室も開催させていただきました。
お花だけではない「椿」を地元の皆さまとともに大いに感じた一日となりました。

美容セミナーの様子

椿の恵まつりに参加したスタッフ

3. 次世代とともに椿を育てる取り組み

大船渡市立 日頃市中学校の活動

岩手県大船渡市立日頃市（ひころいち）中学校では、市の花「椿」の理解を深めるべく「椿の学習プログラム」を全校で実施しています。資生堂では日頃市中学校の要請を受け、未来の街づくりの主役となる生徒に「椿の可能性」を体感してもらうため協力しています。

資生堂パーラーとの調理実習　2017年8月28日開催

８月２８日(月)、生徒たちは資生堂パーラー指導の特製オムライスづくりや大船渡市の椿油で揚げたクロケットの食べ比べに挑戦しました。

まず、パーラーの総調理長が実演しながらオムライスの作り方を指導。チキンライスを卵で優しく包んで作るポイントを生徒に伝授しました。生徒たちはおいしそうなオムライスが出来上がる様子を真剣に見つめていました。

生徒による実習では、最初は緊張気味でぎこちない手つきでしたが次第に笑顔が多くなり、チキンライスを卵で包む難しい作業も無事成功、見事なオムライスが完成しました。

実食では、自分たちでも作れるんだとの自信と共にオムライスのやさしい味に笑顔があふれました。また、椿油とサラダ油でそれぞれ揚げたクロケットの食べ比べも行われ、生徒たちは地元の椿油で揚げたクロケットの味や香りを楽しみました。

パーラー総調理長の見事な手さばきを真剣にみつめる生徒たち

生徒自身による調理

自分たちで作ったオムライスを楽しく実食

大船渡市立 赤崎中学校の活動

岩手県大船渡市立赤崎中学校との出会いは2012年9月11日。
津波で被災した赤崎中学校の仮設校舎前に、資生堂の社員が赤崎中学校の全校生徒と一緒に３年生の生徒数の椿の苗木の植樹を行いました。
苗木の横には「椿の里 大船渡」「ふるさとの復興」をテーマに詠んだ俳句のプレートを立てました。この活動がきっかけとなり、赤崎中学校の生徒さんと植樹した「椿」を共に育てる活動を行なってきました。
植樹した椿がやがて大船渡の新しい産業の芽となる可能性があることをお伝えしながら、生徒さんの間で代々受け継ぎ、大切に育ててきました。

俳句集 2012年度・2013年度・2014年度・2015年度・2016年度

俳句紹介

赤崎中学校の3年生の生徒さんが詠んでくれた俳句を紹介します。

2012年度

流された　浜小屋の跡　ヤブツバキ

赤と白　咲いてまもない　その命

2013年度

希望のせ　未来の椿　咲き誇る

赤椿　ぱっと咲いて　ひらり散る

2014年度

紅く咲く　愛情こもった　椿の木

椿咲く　我が故郷に　夢をのせ

2015年度

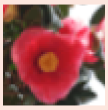
海眺め　大船渡の花　椿咲く

赤椿　見守るうちに　花咲かす

2016年度

北椿　郷里の地にて　咲きほこる

青い海　赤いツバキと　澄んだ空



椿を育てる活動（WEB会議・椿日記）

WEB会議の開催

2013年6月より、整備安全委員の生徒さんとWEB会議を始めました。この「椿ミーティング」では、生徒さんが椿のケアをしている中で気づいたことや、疑問に思ったことを持ち寄り情報共有しています。
椿の育成に必要なことを一緒に考え、専門家からのアドバイスをいただきながら、育成のプログラムを作成しました。

赤崎中学校「椿日記」

2013年度より赤崎中学校では、椿を育てる係として「整備安全委員」の生徒さんが担当することに決まりました。
そして顧問の高橋隆先生から椿のレポートが届くようになりました。
私たちはこれを「椿日記」として記録に残すことにしました。

搾油体験会 2015年11月17日開催

「椿を育て」⇒「実を収穫し」⇒「実から油を搾る」
産業化に向けて重要なこの一連の活動を生徒さんと共に体験することを通じて、より一層「椿」に関心を深めていただき、「椿」で産業化を目指す大船渡市の後押しとなることを目的に椿の実から油を搾る体験会を開催しました。
当日は、30名ほどの生徒が参加し、大船渡の伝統的な搾油機による搾油を見学した後、実際に家庭用の搾油機で搾ってみる体験を行いました。搾油後には、椿油を活用した事例を知ってもらうために資生堂パーラー「気仙椿ドレッシング」の試食会も行いました。

参加した中学生たちは、「椿の実にさわって搾ったりするのが初めてだったので、とてもおもしろかったです」「実際に搾ってみると、思ったより力がいるし、ほんの少しの油しかでてこないとわかりました」「椿オイルが、いろいろなものに使われているというのを、初めて知りました」と楽しそうに語ってくれました。

家庭用の搾油機による搾油体験

「気仙椿ドレッシング」の試食会の様子

参加した生徒さんと記念撮影

<赤崎中学校の先生からのお手紙>

この度は、本校において椿の搾油体験会を実施していただきありがとうございました。
資生堂とは「椿」の縁で交流してはや4年の月日が流れ、震災の記憶も記録も薄らいでいく昨今において、震災後に植えた椿がすくすく育つように、WEB会議や俳句集の贈呈式など以前と変わらず、いやそれ以上に温かく大船渡・赤崎中を見守っていただいた事を感謝しております。

今回の搾油体験に参加した生徒は、本当に楽しそうに活動しました。
そして、大船渡の誇りであった「椿」を再発見する機会ともなりました。
今私たちはいつも支援をされる側にいますが、この子ども達がいつか支援する側、大きくいうと世界貢献する側になってくれることを期待しております。

4. 復興支援マルシェ

当社がサポートしている気仙地区の商材を集めて社内で販売する「復興支援マルシェ」を2013年度より毎年、資生堂汐留本社オフィスにて開催しています。

＜マルシェの目的＞

現地	■ 気仙地区の認知向上 ■ 新たな販路の開拓
社員	■ 復興支援活動を知ってもらい、共感してもらう機会 ■ 復興支援で何かお役に立ちたい！社員の気持ちを叶える機会

復興支援マルシェの様子

非常時の美容について

災害非常時におけるお手入れの方法や、化粧品の効果的な使用方法について、幅広い情報を発信しています。

2011年度の活動と震災支援情報

義援金・寄付金

株式会社 資生堂は、東日本大震災発災直後に義援金1億円を拠出することを決め、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォームに寄付しました。
海外の資生堂グループ現地法人も各国の赤十字社等を通じた寄付を行っており、寄付金額は合計で約3,700万円となりました。
フランスのグループ会社においては、工場で従業員が一日を選び無報酬で就業し売上相当額を赤十字社を通じて寄付したほか、オフィスでは有給休暇一日を返上し相当額を赤十字社を通じて寄付するなど、独自の取り組みを行いました。
当社が社会貢献活動の支援を目的に設立した「花椿基金」にて社員および社友に被災地への義援金を募ったところ、約820万円が集まり、全額を特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォームに寄付しました。

物資支援

東日本大震災発生直後、緊急に必要な生活物資として、水のいらないシャンプー「フレッシィ　ドライシャンプー」を約3万個、洗顔シート・ボディーシート・制汗剤などを約30万個、岩手・宮城・福島の各県の対策本部や警察・自衛隊、支援NPOなどに提供しました。
被災から時間が経過するとともに「眉を描きたい」「肌のお手入れをしたい」などの女性の切実なご要望を伺ったことから、4月末から7月にかけて、化粧水・乳液・ファンデーション・眉墨・ボディーシート類などの化粧品セット3万セットを岩手・宮城・福島の避難所に配布しました。
12月には、仮設住宅にお住まいの方が年を越されるのに少しでもお役立ちしたいと、洗顔料・化粧水・口紅・シャンプー・リンス・ハンドクリームなどの化粧品セット1万2千セットを岩手・宮城・福島の仮設住宅に配布しました。

冬の肌のために、一軒ずつ仮設住宅へ

復興の長期化が見込まれるなか、仮設住宅での生活を余儀なくされている方々に、少しでも晴れやかで心豊かな新年を迎えていただけるよう、12月3日（土）4日（日）に岩手・宮城・福島の3県の仮設住宅へ化粧品セットをお届けしました。スキンケアやメーキャップアイテムに加えて、ヘアケアアイテムや、寒い季節に不可欠なハンドクリームやリップクリームなどをひとつにまとめたものです。総勢約180名の社員が一軒ずつお宅を訪問し、約1万2000セットを手渡しでお配りしました。受け取っていただいた方々には笑顔があふれ、「仮設からはお店も遠いため、シャンプーのような重いものは嬉しい」などの感謝の言葉を数多くいただきました。

ビューティー支援活動

化粧品会社として、被災された方々に少しでも元気になっていただくために、何かできないか。そんな思いから、マッサージやメーキャップ、ハンドマッサージなどの美容サービスを行う「ビューティー支援活動」を、震災発生以来、女性のみならず子どもや男性にも行わせていただきました。

春から夏、避難所を訪ねて

資生堂販売(株)東北支社（仙台市）は、岩手、宮城、福島の各地で、避難所のご要望に応じてビューティーコンサルタントがスキンケアやお化粧をしてさしあげる「ビューティー支援活動」を展開しました。女性のみならず男性、子どもにもハンドマッサージをさせていただき、加えて女性にはフェースマッサージなどをさせていただきました。また、化粧水、乳液などの化粧品セットを３万セットご用意し、化粧品の使い方や避難所での生活に役立つ情報をまとめたリーフレットとともにお渡ししました。この活動には東京の本社社員も359名が延べ1,626日にわたり参加し、7月末までに延べ575回を開催し、3万名を超える方々を応対させていただきました。

集会所で、いつも通りのお化粧を

秋。避難所の閉鎖にともない、ほとんどの方が生活の場を仮設住宅に移されました。4月から夏にかけてはスキンケアとマッサージのみを望まれる方が多くいらっしゃいましたが、冬に近づくにつれて「いつも通りお化粧をしたい」という声が増えてきました。そこで、11月と1月の2回、北海道から沖縄まで全国からビューティーコンサルタントが24名ずつ集まり、仮設住宅を訪問しました。11月5日（金）6日（土）には宮城県内の仮設住宅14か所の422名の方に、1月20日（金）21日（土）には福島県内の仮設住宅13か所の334名の方に、お化粧をさせていただきました。仮設住宅の集会所をお借りして、お一人おひとりに肌のお手入れから仕上げの口紅まで、お化粧をさせていただいたところ、「日常が戻ってきたよう」「気持ちが華やかになったわ」といったありがたい声や、「また来てね」とあたたかい言葉をかけていただきました。

地域メディアへの支援

資生堂では、震災時における情報環境の重要性を考慮し、被災地に密着して情報を発信する「臨時災害FM局」と「コミュニティFM局」を支援しています。非常時におけるスキンケア情報の提供や、コンテンツの制作支援などによって、多面的なサポートを行っています。また、被災地の方々へ向けて、非常時における肌や髪のお手入れ情報をお届けするため、東北3県の地元紙に新聞広告を出稿しました。

ラジオ放送 (臨時災害FM局一覧)

災害情報を放送している岩手県、宮城県、福島県の「臨時災害FM放送局」と「コミュニティFM放送局」への支援を行っています。現地で求められているコンテンツの制作に協力しています。

臨時災害FM局一覧　※各リンクは外部サイトへ移動します。

岩手県

宮古市
みやこさいがいエフエム77.4MHz

釜石市
かまいしさいがいエフエム86.0MHz

大船渡市・陸前高田市
FMねまらいん87.5MHz
りくぜんたかたさいがいエフエム80.5MHz

宮城県

石巻市
ラジオ石巻76.4MHz

塩釜市
ベイウェーブ78.1MHz

岩沼市
エフエムいわぬま77.9MHz

気仙沼市
けせんぬまさいがいエフエム77.5MHz
けせんぬまもとよしさいがいエフエム76.8MHz

名取市
なとりさいがいエフエム80.1MHz

亘理町
FMあおぞら79.2MHz

福島県

福島市
エフエム・ポコ76.2MHz

いわき市
シーウェーブFMいわき76.2MHz

ラジオ放送 (歌よ、届け)

歌よ、届け

東北と縁が深い演歌。現地からも、「演歌に勇気づけられる」という声が多く寄せられています。そこで、演歌歌手の方々に復興への思いを語っていただき、代表曲とともにお届けするコンテンツを制作・提供しています。

小林幸子さん

小林幸子です。
このたびの東日本大震災で被災されたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。
私の生まれた新潟県は、過去において昭和39年に大きな地震がありました。
そして、中越・中越沖地震とほんとに大きな地震が3度もありました。
そのたびに東北のみなさんが助けてくれたんです。
たくさんの人がボランティアで駆け付けてくれました。
新潟県民に、少しでも力になってやろうということで、
みなさんが助けに来てくれました。
私はそのことを忘れることができないんです。
自分がこうして避難所をまわっていることは、自分自身のためなんです。
ほんとにみなさんに恩返しをしたくて。
今回だけではなく、長く、復興には時間がかかると思います。
ですから、ずっと支援していきたいと思います。
まだまだ余震もあります。大変な状況だと思います。
でも、私の心はいつもみなさんの近くにあります。
私だけじゃないんです。みんなみんな思っています。
どうぞ前を向いて、一歩ずつ、一歩ずつです。
一緒に進んでいきましょう。
頑張りましょう。

千昌夫さん

千昌夫です。
このたびの東日本大震災で被災されたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。
私のふるさと陸前高田は、言葉に尽くせぬほどの災害にみまわれました。
しかし私は歌手として、今も苦労をされているみなさんのために、
頑張って歌っていきたいと思います。
私の歌がみなさんの心に届き、少しでも元気になっていただければうれしいと思います。
「北国の春」を長く歌わせていただいてきましたが、
この曲に新しい息吹をいただいたように思います。
私はこれまで以上に頑張って歌を歌っていきます。
これからみんなで力をあわせて、またすばらしいふるさとをつくっていきましょう。

新沼謙治さん

新沼謙治です。
このたび、東日本大震災で被災されたみなさまに、心よりお見舞いを申し上げます。
僕のふるさとは、岩手県の大船渡市です。
生まれ育ったふるさとの町並みは変わってしまいましたが、
あたたかで情の深いふるさとの人の気持ちは、
時は変われど、変わらないものと信じています。
復興にむけて足並みをあわせ、あせることなく、ゆっくりと、確実に、新しいふるさとを再生していかれることを心からお祈りを申し上げます、とともに、私も参加していきます。
何よりこのようなときですので、体調をご自愛ください。

橋幸夫さん

橋幸夫です。
このたびの東日本大震災で被災されたみなさまには、心よりお見舞い申し上げます。
今回は現地のみなさんのみならず、
日本中あるいは世界中のみなさんが大変驚きました。
私もあの日から、毎日欠かさず流れている報道を聞き、見て、
本当に衝撃とショックを超える、大変心痛い毎日を過ごしています。
みなさまの一生懸命頑張っておられる姿で、きっと復興、復活はそんなに長くかからないのではないか、一日も早くと願っていますけれど、折を見て、私たちもできることがあればうかがいたいと思っています。
私たちの歌が、みなさまにとって少しの癒しになればと思って、
歌の機会もいただきたいと思っています。
そして何よりもみなさんは、健康を害さないように。
一生懸命復興のためにこれからもみなさんとともに歩んでいきたいと思います。
私も心から願っております。

八代亜紀さん

八代亜紀です。
このたびの東日本大震災で被災されましたみなさま、心からお見舞い申し上げます。
今回の震災で、みなさんたいへんなご苦労をされていると思います。
でも今こそ、男性ができること、女性ができること、それぞれの役割を大切にして、
どんな状況でもみなさまくじけずに頑張ってください。
いつでも応援しています。

鳥羽一郎さん

みなさま、お元気でしょうか。鳥羽一郎です。
今回の被災地は港町が中心で、漁師をはじめ、漁業関係者がとても大変な思いをしています。被災地では多くの人に私の歌を聞いていただいて、元気が出たと言ってくれました。逆に勇気をいただいてまいりました。
漁師から歌手となって今、みなさんのお役に立てることが、長く歌ってきてよかったなと、しみじみと思っております。これからも歌い続けます。
みなさんも諦めず、未来に向かって一歩ずつ、焦らず、進んでいっていただきたいと、こんなふうに思います。からだだけは十分注意をしてください。頑張ってください。

都はるみさん

みなさん、都はるみです。
東北ではいろんなところで、沢山の方の前で歌わせていただきました。この間、被災地を訪ねた時には、みなさんに「頑張って」と、かえってなんか肩をたたいてもらったりして、元気をもらってきました。そのときに「一緒の歳ですよ」とか、「はるみちゃん、また来てね」って。本当にみなさんとの再会を約束して私は帰ってきました。
やっぱりこう、ひとつひとつの生きる力というものをものすごく今、感じています。
もう一度みなさんの前で歌えるのを楽しみにしています。絶対にみなさんの前で歌いたい。本当にそんな気持ちです。
一緒にこれからも、ひとつひとつ、こつこつ、前に進んでいきましょうね。

ラジオ放送 (耳をすましてね)

耳をすましてね

なかなか気が休まらない毎日のなかでも、ほっとひと息つけるようなひとときを過ごしていただくため、子どもたちが楽しめるような絵本の朗読コンテンツを制作・提供しています。

コーラス

てがみ

むぎぶえ

びわ

かまきり

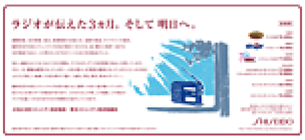
作　　品：絵本「おはなしぽっちり」
（もりやま みやこ作・とよた かずひこ絵・小峰書店刊）より5話（各約5分）
①コーラス、②てがみ、③むぎぶえ、④びわ、⑤かまきり
朗　　読：中井貴恵
テーマ曲：浜田真理子（♪LOVE YOU LONG）
音　　楽：遠TONE音

新聞広告

ウェブサイトに掲載した「被災地での肌と髪のケア」をもとに、非常時におけるお手入れ方法を新聞広告の形にまとめ、現地へお届けしました。読みやすい大きな文字と絵本風のイラストで構成し、必要な部分だけを切り取って保管できるようにデザインされているため、壁新聞としてもご活用いただくことができるようにしました。

2011年5月15日

2011年6月5日



2011年6月11日

2011年8月21日

2011年8月21日

最終回では、ビューティー支援活動を通して「資生堂がみなさまに教えていただきました」という感謝の気持ちと、これからも東北の地で、みなさまの生活と心に寄り添い活動を続けますという意思をお伝えしました。

写真展「色とりどりのラブレター展」

資生堂は、2012年1月13日（金）～17日（火）の5日間、せんだいメディアテーク（宮城県仙台市）にて、写真展「あしたが、もっと、カラフルでありますように。～資生堂ヘア・メーキャップアーティストによる、色とりどりのラブレター展」を開催しました。
資生堂ビューティークリエーション研究センターでは、所属するヘア・メーキャップアーティストが自由な発想と創造力で人々に喜びや楽しさ、感動を与える創作の場である創作展を1989年以来開催してきました。3月11日の東日本大震災後、復興へ向かう東北地方を応援したいというアーティストの気持ちから、17回目にして初の地方開催として、仙台で開催しました。
写真展では、「東北の明日が、もっと明るく、色と光に満ちたものであるように」というメーキャップアーティストの願いを込めた作品30点や、自らも被災しながら被災者のサポート活動に従事する女性をモデルとした「東北のミューズ（女神）たち」6点の展示のほか、CM撮影などで活躍するヘア・メーキャップアーティストによる写真撮影会、資生堂ビューティートップスペシャリストによるビューティーセミナーやトークショーなどを行いました。
仙台での開催後、3月には大阪ステーションシティー（大阪市）、2012年6月から7月には、JR東日本の協力のもとJR上野駅とJR品川駅の構内で同写真展を開催しました。海外では、2012年10月2日（火）～20日（土）にフランスの「パリ日本文化会館」（パリ）にて、これまで公開した作品に一部編集を加えた写真展「美しい日本の笑顔～笑顔のチカラ」を開催しました。

たすきをつなごう　資生堂ランニングクラブの支援活動

笑い声、声援、そして大きな拍手。この日、宮城県東松島市立大曲小学校の校庭はずっと歓声がつづいていました。
海の近くに建つこの小学校は、校舎の1.7mの高さにまで津波が押し寄せ、ガレキを撤去しても、しばらくは体育の授業を行うことができなかったそうです。
震災後、資生堂に手紙を送っていただいた先生とのご縁で、資生堂ランニングクラブ主催の「ジョギング教室」を開催しました。前日に宮城県で開催された全日本実業団女子駅伝大会に出場した選手たちも、資生堂がお贈りしたピンクの手袋をした359名の全校児童と一緒に校庭を走り、ひとときを流しました。
選手が実際に走るスピードを実感してもらうプログラムでは、懸命に選手を追いかける子どもがいました。「たすき」を渡す練習では、みんなが「たすき」を掛けたがっていました。「どうしたら速く走れますか？」「練習が嫌になったことはありませんか？」などの声が飛びかった質問コーナー。最後に、選手の「駅伝の選手になりたい人は手をあげて！」の声に、いっせいにピンクの小さな手のひらが振られました。この日、校庭には、ひとつの「たすき」でつながれた笑顔があふれていました。

その他の活動

チャリティーイベント支援

4月29日（土）～5月1日（日）までの3日間、ワード資生堂（東京銀座資生堂ビル9階）にて、「Artists' Action for JAPAN～東日本大震災チャリティードローイングプロジェクト」が開催されました。これは東日本大震災を支援するため、若いアーティストや芸術家を志す学生たちが中心となって立ち上げたプロジェクトで、参加を希望して集まったアーティストがその場で描いたドローイングを会場で販売しました。3日間で計549名が来場し、その収益金約60万円が日本赤十字社を通じて被災地へおくられました。

学生ボランティア支援

被災地でボランティア活動に取り組むNPO団体への支援を行いました。学生ボランティアの増加が見込まれる夏休み期間に合わせて、現地で活動する３つのボランティア団体に「アネッサ」の日やけ止めを提供しました。さらに、活動時に着用していただくオリジナルの長袖Tシャツも配布し、夏場のボランティア活動をサポートしました。

ソーシャル・スタディーズ・デーの延長

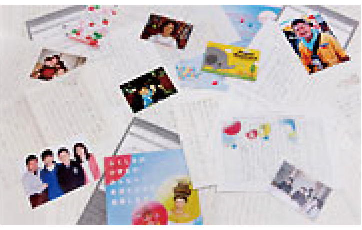
資生堂には、1年間に3日を限度に社員の社会活動を業務扱いと認める「ソーシャル・スタディーズ・デー」という人事制度があります。このたびの震災を受けて、この制度の適用を通常の3日間から7日間まで拡大することを決定し、被災地でのボランティア活動などへの参加を支援しました。

2012年度の活動と震災支援情報

希望　イロイロ　バルーン展

資生堂は、2012年12月21日（金）～25日（火）の5日間、いわき産業創造会館（福島県いわき市）にて、ポスター展覧会「希望　イロイロ　バルーン展」を、毎日新聞社と共催しました。ともに創業140周年を迎える資生堂と毎日新聞社が、互いの本業である「化粧」と「活字」の力で福島の子供たちの夢をかなえ、日本中に希望を届け、福島の未来を応援するという企画です。展覧会タイトル「希望　イロイロ　バルーン展」には、子供たちの希望や夢が風船のように大きくふくらんで、日本中のたくさんの人に届くようにという願いをこめました。

希望　イロイロ　バルーン展　ウェブサイト



福島の子どもたちの夢をかたちにするにあたり、福島県在住の小学生を対象に「未来の自分」をイメージした「絵」と「すてきになってほしいおとな」をテーマにした「作文」の2部門で作品募集を行いました。選出された絵（24作品）、作文（8作品）をもとに、宣伝制作部のクリエイターと資生堂ビューティークリエーション部のヘア&メーキャップアーティストが協力し、オリジナルポスターを創作しました。
展覧会では、このオリジナル創作ポスターとともに、300点以上の子どもたちの応募作品も展示しました。また、会場ではバルーンアートなど子ども向けのワークショップやお母さん向けのメーキャップ実習会などさまざまなイベントを開催しました。

この展覧会で展示した作品は、資生堂本社社屋、毎日新聞社本社社屋、カナダ・トロントの日系文化会館でも巡回展示されました。

日本女性会議2012仙台でのビューティー支援活動

資生堂は、2012年10月26日（金）～27日（土）に仙台国際センターで開催された「日本女性会議2012仙台」（※）にて、当社が取り組む東日本大震災の支援活動を紹介しました。

会場では、資生堂販売（株）東北支社のビューティーコンサルタント延べ11名が、これまでに避難所・仮設住宅で実際に行ってきたハンドマッサージを行いながら、被災した女性の復興に向けた気持ちを自身の体験とともに伝え、「化粧には心を元気にする力がある」ことを参加者に実感いただきました。また、資生堂ビューティートップスペシャリスト4名が「明日に向け、一歩を踏み出す、希望のチカラ」をテーマに新たに制作した作品と、1月に仙台で開催した写真展への出展作品の合計18作品を、会場エントランスおよびメイン会場など4会場に展示しました。

※ 日本女性会議は、1984年以来、女性の地位向上と男女共同参画社会の実現をめざし、全国の都市持ち回りで毎年開催される日本最大の女性のシンポジウムです。仙台で開催された今年の会議は、女性の視点で東日本大震災からの復興や防災のめざすべき姿を探ることを盛り込んだ内容でした。

ビューティーコンサルタントによるハンドマッサージの様子

資生堂ビューティートップスペシャリストの作品展示の様子

未来椿プロジェクト

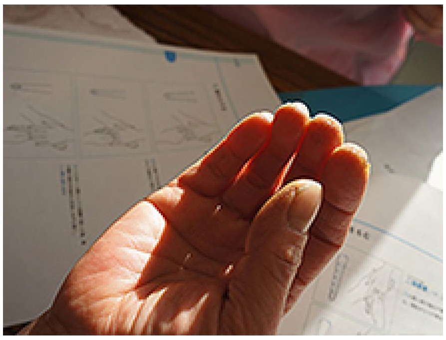
2012年、資生堂は創業140周年を記念して、これまで支えてくださったお客さまや社会に、感謝の気持ちを伝える取り組みとして、世界中の全グループ社員が参加する社会貢献活動「未来椿プロジェクト」を実施しました。その中で東日本大震災被災地の支援にかかわる活動として「被災地や遠隔避難者へのビューティー支援活動」「中学生・高校生への次世代活動」「環境にかかわる沿岸部活動」などがあります。

SINCE 1872
SHISEIDO
140
Anniversary
未来椿プロジェクト
MIRAI-TSUBAKI Project

2013年度の各事業所の活動

ハンドマッサージ＆タッチケア講習会　本社・専門店部

2013年4月26日　　宮城県南三陸町



本社専門店部では、2012年に引き続き、宮城県南三陸町へ出向き、癒しの波及をテーマに「ハンドマッサージ＆タッチケア講習会」を実施しました。
今年もビューティークリエーション研究センターの協力を得て、昨年活動したメンバーとは異なる5名が、『NPO法人　みやぎジョネット』の職員の方々20名にマッサージ方法をお伝えしました。
職員の皆さまは、習得したマッサージを被災された方々に対して行っており、「被災された方に触れながら、マッサージを通じて喜んでいただけることがとても嬉しい」と大変ご好評いただいています。この活動が被災された方々との絆づくりにつながっていることを実感しました。 職員の方々は被災者の方々の笑顔を取り戻すために日夜懸命に努力されています。活動中、「日々の過酷な支援活動でヒビ割れだらけだった手がキレイになった！」と喜ぶ笑顔が印象的でした。

「魚付林」の植林活動支援　イプサ

2013年10月13日　　岩手県宮古市

イプサでは、2011年より商品ご購入の収益の一部を植林活動支援にお役立ていただくため、NPO団体を通じて寄付を行っています。
2012年からは寄付だけではなく、社員が植林活動にも参加し、2013年には植林活動を通じて震災復興支援を行いました。 盛岡から車で1時間ほどの宮古市河合地区で、イプサを代表し6名が参加し、285本を植樹しました。河合地区はサケの遡上で有名な閉伊川（へいがわ）の水源にあり、その森を育てることが被災した漁業の町の復興につながります。

小学校でのマラソン教室　本社・人事部

2013年12月16日　　宮城県松島市大曲小学校

本社人事部では、2011年より松島市の大曲小学校で児童を対象にマラソン教室を行っています。
ジョギングによる交流のあと、選手、スタッフが各クラスに分かれて給食を食べて楽しいひと時を過ごしました。
今年で3回目の開催となりますが、子供たちが年々元気を取り戻してきている姿にかえって元気をいただきました。
校舎の2階の壁にはまだ津波の痕が残っており、初めて参加したスタッフや選手は地震、津波の大変さを改めて知る機会にもなりました。

「椿の恵 まつり」運営サポート　本社・流通開発部

2013年11月23日　　岩手県大船渡市

本社流通開発部は、資生堂が岩手県気仙地区で取り組んでいる復興支援活動の一環として実施した、「椿の恵 まつり」に参加しました。
「椿の恵 まつり」は、気仙地区の方々に、椿油の食体験を通じて椿の可能性を体感・共感していただくために、資生堂が主催した参加型のイベントです。
100名以上の流通開発部メンバー全員が「椿の恵 まつり」に関わることをめざし、当日お配りするサンプルセットを全員で作成しました。さらに部代表の13名がまつり当日の運営をサポートし、イベントの各所で「おもてなし」の精神を発揮しました。
参加したメンバーたちからは、「子どもからお年寄りまで、たくさんの温かい笑顔に勇気をもらいました」「苦難を乗り越えようとしている方々だからこそもつ強いパワーに感動しました」など感想が寄せられています。

講演会・化粧教室の開催　資生堂販売（株）東北支社

2013年7月～9月　　福島県郡山市

東北支社は、一般社団法人 脳と心の健康科学研究所、日本大学と連携し、ストレスをうまく解消しいきいきと生活していただきたいという思いから、「心を癒す　化粧セラピー」と題した講演会・化粧教室を7月～9月の第2、第4土曜日の全6回にわたって行いました。
第1回の脳の専門家である酒谷日大教授の講演会「脳を元気にする　化粧セラピー」に続き、第2回～第6回の各回でマッサージ、ベースメーキャップ、ポイントメーキャップ、ハンドケアの化粧教室を行い、参加者の方に実習していただきました。

簡単タッチケアとハンドマッサージの体感活動　資生堂販売（株）東北支社

2013年9月21日　　福島県会津若松市

東北支社は、9月21日に開催された「子育てフォーラムin会津2013」に体験型ブースを出展し、震災後に原発の影響で会津に避難している親子の方々にタッチケアを楽しく体感いただく取り組みを行いました。
「震災後に原発の影響で避難している子育てのお母さんに、日頃のストレスから解放される1日をプレゼントしたい」「将来を担う子どもたちと楽しく笑顔になっていただける活動をしたい」との想いから実施したもので、子育て中の親子70組を対象に、簡単タッチケアとハンドマッサージの方法をご案内しました。

美容サービスの実施　資生堂販売（株）東北支社

2013年9月22日　　岩手県宮古市
2013年9月29日　　福島県相馬市
2013年11月2日　　岩手県盛岡市
2013年11月16日　　宮城県気仙沼市

東北支社は、健康セミナーなどを通じた心のケアに取り組んでいる一般社団法人　心の絆プロジェクトと連携し、化粧を通じて「人の心を癒し、人の心を励ます」ビューティー支援活動に取り組んできました。
盛岡市、相馬市、気仙沼市で開催されたシンポジウム「市民健康フェア」では、参加者を対象にスキンケア・メーキャップの実習を行いました。 また、宮古市の田老公民館で開催された「健康相談会」では、仮設住宅にお住まいの方に対するフェイシャルマッサージを行いました。

遠隔避難者の方に対するスキンケア・メーキャップレッスン　資生堂販売（株）

2013年6月19日、9月29日　　山形県鶴岡市
2013年6月29日、10月10日　　東京都千代田区

福島県・宮城県からの遠隔避難者の方に対する取り組みとして、東北支社は鶴岡市社会福祉協議会、首都圏支社は東京YWCAと連携して、スキンケア・メーキャップのレッスンを行いました。参加者の方々には、避難生活という日常をひと時忘れ、化粧を楽しんでいただきました。

非常時の美容について

災害非常時におけるお手入れの方法や、化粧品の効果的な使用方法について、幅広い情報を発信しています。

被災地での肌と髪のケア これからに向けて。メーキャップができること。

SHISEIDO

非常時の美容について
災害非常時におけるお手入れの方法や化粧品の効果的な使用方法について幅広い情報を発信しています。

被災地での肌と髪のケア

これからに向けて。メーキャップができること。

SHISEIDO

「非常時の美容」はホームページでもご紹介しています。
http://www.shiseidogroup.jp/csr/shien_support/beauty.html

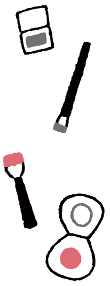
発行：2014年9月　編集・制作：グローバルイノベーションセンター、CSR部　発行元：資生堂ビューティークリエーション部

被災地での肌と髪のケア

「リフトアップ」の笑顔体操

緊張が続く日々だからこそ、意識的にほぐすことも大切。「リ・フ・ト・アッ・プ」と発音しながら、各ポーズで10秒ずつキープする簡単な顔体操です。すがすがしい朝のうちに1分。1日の始まりは笑顔から。カタチをつくることからでも、気持ちがポジティブに動きます。
笑顔体操は、魅力的な表情を導くフェースマッスルプログラムをもとにし、簡易化してつくっています。

メーキャップで、元気になる



メーキャップには、女性を元気にする心理的な効果があります。たとえば眉を整えてみるだけで、素肌に軽くほお紅をのせるだけで、明るい表情が生まれてきます。そして何より、あなたが明るい顔をしていることで、あなたのご家族や周囲の人々も、元気になることができます。「まだメークなんて」と決めつけずに、少しずつでも、あなたらしい美しさを取り戻していってください。

ひさしぶりのスキンケア

少しずつ通常の生活に戻っていく中で、きちんとしたスキンケアができるようになる日は、必ずやってきます。そんなときに、まず何をすればいいのでしょうか。
2ヵ月以上もスキンケアができないでいた肌は、かさついていたりごわついたりしていることと思われます。まず必要なのは保湿ケア。化粧水や乳液をたっぷり使った朝晩のお手入れを。そして日中の紫外線対策をしっかりと。特別なことをするというより、日常的なお手入れを着実に続けていくことで、肌も、ふだんの状態へと帰っていくことができます。

洗顔フォームがない場合、浴用石鹸で洗顔できる？

洗顔用ではない浴用石鹸やボディソープなどで顔を洗うと、肌がつっぱって乾燥しがち。そういう場合は、まずあぶらっぽい部分（額や鼻などのTゾーン）にだけ泡をつけて洗って。流すときに顔全体に泡を広げるようにすると、乾燥しやすい頬や目の周りのうるおいを奪わないで洗顔することができ、水の節約にもなります。

洗顔は、1日何回？

洗顔フォームによる通常の洗顔は、朝晩の2回が原則。洗いすぎは、肌に必要な保湿成分まで失われてしまいます。ただし、汗やホコリがついたままにしておくのも肌には良くありません。汚れたら、水やぬるま湯だけで軽く洗い流す程度の洗顔を。

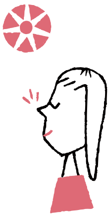
被災地での肌と髪のケア

制汗剤があるときは

スプレー式やシート式の制汗剤がある場合、汗を十分にふきとってから使うのが効果的。成分が汗といっしょに流れ落ちてしまうと、効果を発揮できません。また、顔用と明記されているもの以外は、顔には使わないでください。

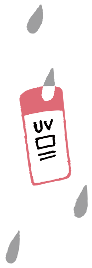
ファンデーションが使えたら

日やけ防止のためにも、ファンデーションをつけることをおすすめします。日ざしを受けやすい「鼻」や「ほおの高い部分」をしっかりカバーしましょう。



汗をふくときは、やさしく

顔の汗をふくときは、できるだけ清潔なタオルで、肌に負担を与えないようにやさしく押さえるようにふきとってください。ゴシゴシ強くこすると、摩擦で肌表面の角層に細かな傷がつき、そこから水分が失われて乾燥の原因になってしまいます。



日やけ止めは、落としやすいものを

レジャー用などの、汗や水に強いタイプの日やけ止めには、落とすときに専用クレンジングを必要とするものがあります。十分なクレンジングができない環境では、こうした防水タイプの使用はできるだけ避け、普段使用している洗顔料で落とせるタイプの日やけ止めを選び、こまめに塗りなおすつもりで。

「首のうしろ」がポイント

屋外にいると特に日やけしやすいのが、首のうしろ。作業のために髪をしばっていると、気が付かないうちに真っ赤になっていたりします。つばの広い帽子をかぶる、タオルを巻く、シャツの襟を立てるなどでカバーしてください。
また首のうしろのけい動脈を冷やすことで、特に首から上（顔や頭皮）の汗を抑えることができます。
濡れタオルなどを首に巻くだけでも、ひんやりとした心地よさが続きます。

紫外線対策は、男女を問わず

5月から6月にかけての紫外線は、すでに真夏並みの強さになっています。紫外線は肌の大敵なのはもちろんですが、体力まで低下させ、疲れやすくなる原因にもなってしまいます。特に屋外作業などをする場合は、女性だけではなく、男性にもしっかりとした紫外線対策をおすすめします。

被災地での肌と髪のケア

爪のケア

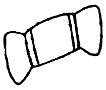
十分なケアができない状態で爪をのばしておくと、欠けたり、雑菌によって感染症の原因になったりします。短く切っておくことをおすすめします。

ずっとスキンケアしてなくて、不安

ご自宅で生活していても、物流事情などでいつものスキンケアができない、というかたも多いと思います。長期間スキンケアができないと不安になりがちですが、肌は自ら健やかで美しくなろうとする力をもっていますから、お手入れする化粧品が手に入ってから、丁寧なお手入れをしてあげれば大丈夫です。ただ、心がけておきたいのは、できるだけ肌を清潔に保っておくこと。気分の問題だけではなく、トラブルの防止につながります。

顔や唇の乾燥を防ぐには

ネットで検索すると、肌の乾燥防止のために食品などで代用する方法を目にすることがあります。誤解されがちなのですが「食品（口に入れるもの）なら肌につけても安全」とは限らないことにご注意ください。かえって肌トラブルを起こす原因になる場合もあります。化粧品がなく、唇が荒れてやむをえない時に食用油などを少量つける場合は、手の甲や腕などに少量ぬってしばらく置き、赤くなったりかゆくなったりしないか必ず確認のテストを行ない、かゆみなどを感じたらすぐに中止してください。（特にアトピー性皮膚炎などの皮膚疾患をお持ちの方は十分にご注意ください）



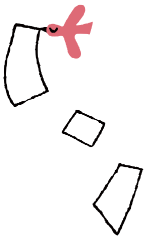
肌のために、かんたんにできること

特別なテクニックを知らなくても、手を合わせて揉むような簡単なマッサージをこまめにすると血行が活発になり、代謝がよくなって温かくなります。特に、冷えやすい手指や膝から下、足指を重点的にもんだりさすったりすることをおすすめします。あまりゴシゴシと強くこすらないように。また、マスクや手袋で顔や手を覆っておくことは、防寒だけでなく肌を乾燥から防ぐ意味でも効果的です。

洗顔シートなどの使い方

まず顔を拭く→首やわきの下等、からだの汚れやすい部分、においの気になる部分を拭く→最後に足の汚れなどを拭く、という順番で使うと、少ない枚数を効率的に使うことが出来ます。

被災地での肌と髪のケア

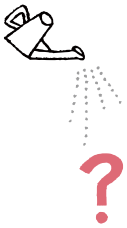


洗顔ができないときは

ウエットティッシュやボディ用シートなど、肌に使えるシート類が入手できれば、それらで顔を拭くこともできます。ただ、スースーするメントールやアルコールを含んだものは、しみる場合もありますので、あごの下の部分等で問題がないか確認するようにしてからお使いください。皮膚の薄い目のまわりは避けるようにしてください。また、水が使えないときに、メーク落としのためのクレンジングシートで顔のよごれを拭いた場合は、その後、ウエットティッシュや濡れコットン等でもう一度肌を拭くようにしてください。メーク落とし成分が肌に残ったままだと、トラブルの原因になってしまうことがあります。

水でシャンプーしてもいい？

お湯が使えないという場合、泡立ちが物足りないかもしれませんが、水でシャンプーすることも可能です。ただ、冷たい水ではすすぎが雑になりがちです。トラブルにもつながりますから頭皮を中心に泡が残らないようしっかりすすいでください。お湯が使えず、水が冷たく十分にすすげない場合は頭皮を拭くだけにしておくことをおすすめします。



できるだけ少ない水でシャンプーするには

まず先に少量の水で泡を立ててからシャンプーします。何ヶ所か少量ずつ、地肌に直接泡をつけ、頭皮を揉むように洗っていきます。すすぐときも、濡れタオルなどで地肌についた泡を拭きとってから、地肌を中心にすすぐと、水の量を節約できます。

水のいらないシャンプーの使い方

頭皮と髪全体に適量を塗布し、軽くマッサージした後、タオルなどで拭きとります。

髪が洗えないときは

髪はしばってまとめておいたほうがもつれず、汚れにくくなります。バンダナなどで髪をおおったり、帽子をかぶったりするのも効果的です。

水が十分に使えないときの髪のケア

まずブラッシングや指などで髪の流れを整えておきます。そのあと、髪を少しずつブロックに分けて、分け目の地肌を濡れタオルやウエットティッシュなどでていねいに拭いていきます。地肌を拭くだけでもだいぶさっぱりします。特に額の生え際から頭頂部にかけて、頭の中心線付近が、あぶらっぽくべたつきやすいので念入りに。

これからに向けて。メーキャップができること。

はじめに

資生堂では、現在避難所において、女性の方にはフェースマッサージを、男性やお子さまにはハンドマッサージなどを行うビューティーボランティア活動を実施しております。また化粧水や乳液などをひとつにした化粧品のセットを、お渡ししながら使い方をお伝えしています。みなさんからは「本当はずっとお化粧がしたいと思ってたの。」「気持ちが明るくなった。」そんな声をうかがうことができました。

店頭に立つビューティーコンサルタントたちは、あの日以来、ずっと悩み、迷っていました。お客さまになんと声をかけてさしあげればよいのだろうか。化粧品会社に勤める自分は、こんな状況で、化粧品によって、一体に何ができるんだろうか。無力感にさいなまれ、そして何より彼女たち自身が被災者でもあったのです。

そんななか、メーキャップアーティストであり、資生堂ビューティートップスペシャリストの岡元美也子が、仙台におもむき、現地のビューティーコンサルタントたちにメーキャップセミナーを行いました。そこで、あらためて感じたのはメーキャップのちからだったのです。

今回の特集では、岡元美也子がメーキャップについてお話します。かぎられたなかでも、効果的に美しさを引き出す方法や夏を少しでも涼しく感じるための方法などをお伝えします。

もしも様々な状況が許すのであれば、気持ちを明るくしたり、前に進むきっかけとしてメーキャップという手段がある、ということを少しでも胸にとどめていただければ。そう願いながら進めたいと思います。

化粧は「飾る」だけじゃない。元気もつくることができる。

―被災地に行って、気づいたことはありましたか？

あらためて自分を慈しむことの大切さを感じました。お化粧が「贅沢」や「不謹慎」とためらわれている方も多いのですが、やはり女性にとっては、化粧は毎日の生活に根づいた「日常」そのものであること。その化粧という「日常」を行うことで、日常を少しでも取り戻すきっかけになるのではと気づきました。　そして何よりお化粧が、やる気や元気のスイッチになっていること。　自分が疲れていると、周りも元気にできない。逆に自分が元気でいることで、周りのみんなも元気になれるのでは、と思います。　今回は「美しくメークをしている」と見せることが目的ではありません。元気な印象をメーキャップの力を借りて補う。メーキャップで元気になる。ということを意識しました。

―それはどんなものでしょうか？

元気にみせるために、それほど多くの道具やテクニックは必要としません。ただ大切なことがあります。例えば、血色感や、つや、みずみずしさ。これらは生命力や元気の象徴であるからとても重要です。
ほかにも、これからの季節を快適に過ごすための方法などをご紹介します。

資生堂トップヘア＆メーキャップアーティスト
岡元 美也子 OKAMOTO MIYAKO

資生堂約12,000人の美容に関わる社員の頂点である「資生堂トップヘア＆メーキャップアーティスト」。
5年間のNY駐在を経て、現在もNYコレクションを中心に数多くのメゾンでメークチーフを務めている。最先端のモードの現場で蓄積したトレンド情報をわかりやすく解説し、TV・雑誌への出演、商品プロデュースなど多方面で活動中。「シンプル・モダン・リアリティ」をベースとしたメークテクニックに著名人からも厚い信頼を寄せられている。また、自ら開発に携わった「資生堂ファンデーションブラシ131」は、発売後約１年で100万本を超える大ヒットとなり、2012年度には「ベストコスメ総合大賞」など3冠を受賞。

これからに向けて。メーキャップができること。

メーキャップを始める前に

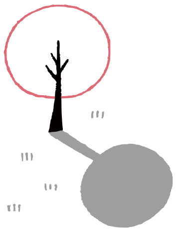
乾燥よりも汗やべたつきのほうが気になる場合は、せっかくメークをするのですから、ずっとキレイを保てるように最初にちょっとしたコツがあります。それはなるべく涼しい状態でメークを始めること。うちわであおいで、顔を涼しくしたり、保冷剤があればタオルに包んで顔を冷やしたり、水でぬらしたタオルを顔にあてるだけでも違います。メーク中も冷たいタオルを首にのせたまま行えば、メークした先から、汗でくずれてしまうことも防げます。

チークで、サッと元気感を

ほおの血色感は、明るさ、元気さの象徴になり、笑顔がより際立ちます。現地ではマスクをしている方もいらっしゃいますが、もし機会があれば、チークをお使いになってはいかがでしょうか。元気に見える色はオレンジ系、かわいらしい印象がお好みならピンク系を。にこっと笑ったときに、ほおが高くなる位置を中心に丸く入れましょう。指でつけてかまいませんが、コットンを裂いて、裂け目のふわふわしたほうに粉を含ませて、ブラシ代わりしてもきれいにつきます。

マスクや帽子の方こそ、眉を描いて

マスクに加えて帽子を着用されている方も多いと思います。紫外線を防止する上では大変よいのですが、顔に影を落とすので、眉を描くとグンと顔がくっきりします。もし手に入る機会があるなら、パウダータイプのアイブローパレットなどがおすすめです。削る必要がありませんし、アイシャドーにも使えます。少し太めの眉に仕上げると、若々しくイキイキとした印象になります。カジュアルな服で過ごす方も多いと思いますので、お似合いになると思います。毛流れを整えるだけでも効果的です。指でかまわないので、上向きに整えてください。顔にはつらつとした力強さがでます。ぜひ男性もお試しください。逆に自分は眉がしっかりあるな、という方は無理に描く必要はありません。



できれば日ざしからは守ろう

「ファンデーションや、ポイントメークまではまだちょっと」と思っている方も、手に入るならば、日やけ止めを塗って紫外線から肌から守りましょう。化粧下地でもかまいません。カラーコントロール効果で、美肌に見せるタイプや、石けんや洗顔フォームで落とせるタイプものもあります。

これからに向けて。メーキャップができること。

瞳に光を与える、まつ毛へのくふう

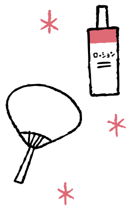
マスカラを塗らなくても、アイラッシュカーラーで上げるだけでも全然違います。まぶたが持ち上がって、光が入り、瞳がキラキラするんです。これも立派なアイメークです。カーラーがない方は、指でもだいじょうぶです。「指先のカーラー」をお試しください。人差し指の丸みにあわせるように、まつ毛をのせ、下から持ち上げるようにぐっと指を上げます。毛先を軽く押し当てるように2、3秒キープ。指の体温の熱でアイロンするイメージです。

元気に見える肌づくり

ファンデーションは、元気に見えるための以下のポイントを特にカバーしましょう。・目の下のクマ・小鼻のワキ・口角のサイドライン（下がって見えるので、影を消す）

涼しくすごすための知恵

清涼感のあるローションなどを胸もとや首すじなどにつけたあと、うちわであおぐだけでも涼しさがアップします。あせもなどが心配なときは、あればボディーパウダーやベビーパウダーを使って、汗がこもりがちなひざやひじの部分、胸もと、背中などにつけましょう。



目もとに、輝きを乗せて

アイシャドーがあれば、パールやラメが入ったものを使うと、目もとの印象が明るくなります。色は淡いブルーやグリーンなど涼しいパステル系の色はさわやかでおすすめです。しっかりつける必要はありません。かえって腫れぼったい印象になってしまいます。肌の色が透けて見える程度でかまいません。色をつけるというより、透明感を乗せる感じでしょうか。綿棒の先端を指先にはさんで平らにつぶせば、チップの代わりができます。アイラインを描くときにも便利です。

使えるものが限られた状態でも、美しさは、引き出せます。

すべてできないからこそ、新しい美しさの発見があります。そして自分の顔を見つめると、**自分のメークの優先順位がわかってくるはずです。そこを中心に補ってあげればいいんです。**眉からだけでも、ずいぶん印象は変わってくるはずです。**またポイント絞ってメークすることでメリハリが利いて、その人の長所を、より生かした輝きが増すんです。**今だからこそ、自分のよいところを見つけて、たくさん愛してほしい。そのためにメーキャップが少しでもちからとなり、前に進むためのエネルギーとなればこんなにうれしいことはありません。

子どものための取り組み

ジュニア層へ向けた美容生活情報の提供活動

化粧品使用の低年齢化に伴い、自己流の使い方によって肌あれなどを起こす子どもが増えています。資生堂では、子どもたちに、自分自身で健やかな肌を守れるようになっていただくために、紫外線対策や洗顔方法などの美容生活情報をわかりやすく発信しています。
2009年に始まり、これまで約6,000名の児童に出会いました。

「資生堂子どもセミナー」の様子

小学生対象 出前授業

資生堂子どもセミナー

資生堂子どもセミナーは、全国の小学校で行っている無償の出前授業です。 肌が変わる思春期直前の小学校4・5・6年生の男女児童に、「肌」や「清潔」についての情報や、一生続けられる正しい肌の手入れ法を実習を交えお伝えしています。

「肌を大切にする」「肌を清潔にする」ための情報や、「肌を守る」ための 正しい手入れ法を知ることで、にきびや肌あれが起きたときも、悩んだり、 むやみに人目を気にしたりせずに、子どもが自分できちんと対処できるようになり、それが自信の育みへとつながります。

【２つの授業】

正しい洗顔

肌と汚れの関係を知り、
肌を清潔に保つ方法を学びます

日焼け予防

紫外線が肌におよぼす影響を知り、
紫外線から肌を守る方法を学びます

資生堂マイクレヨン プロジェクト

「資生堂マイクレヨン プロジェクト」では、「自分らしさ」や「個性」について学ぶことができる出前授業を行なっています。

「肌色」をテーマに、特別に作られたさまざまな色の肌色クレヨンの中から、あなた色のクレヨンを見つけます。そのクレヨンを使って自分の顔を描き、自分だけの特別な肌色があることに気づきます。

さらに、考え方や価値観の違いにも議論を発展させ、その違いを認め合うことが大切であることを伝えていきます。

教諭対象 養護教諭研究会

小中学校の養護教諭を対象にした養護教諭研究会での講演「～健やかな毎日のために～日焼け予防と正しい洗顔」を行っています。

養護教諭研究会は、市町村など地域ごとのブロック単位で実施する養護教諭の勉強会です。本講演では児童・生徒の健やかな肌づくりのための情報伝播を加速するために「日焼け予防」と「正しい洗顔」を核に、実習もふんだんに取り入れて推進しています。

ウェブサイト

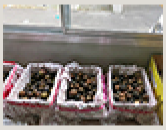
「 キッズのためのキレイクラブ」での美容生活情報を発信しています。

保健授業をサポートする教材

保健授業をサポートする映像教材（DVD）・児童配付用リーフレットを無償で提供しています。
「資生堂子どもセミナー」「無償教材」のお申し込みは、「キッズのためのキレイクラブ」内専用申し込みフォームからお願いいたします。
お問い合わせは、 メールにてお願いいたします。

赤崎中学校「椿日記」

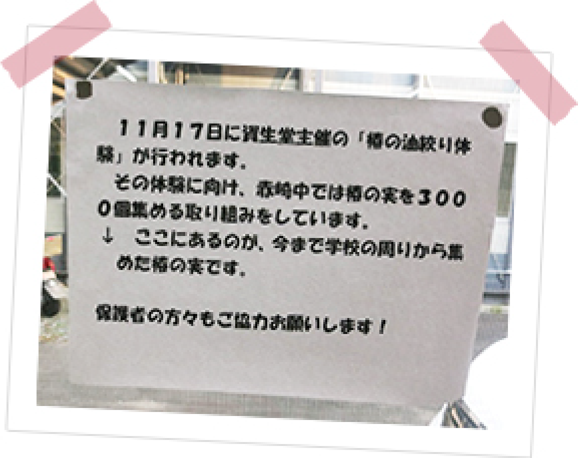
2015年度

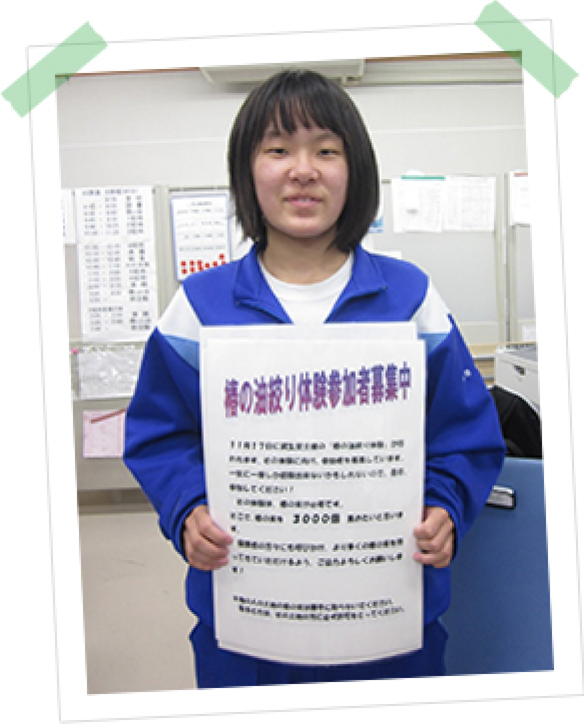


2015年10月7日（水）　**「目標：椿の実3,000個！」**

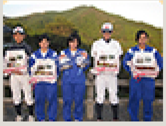
搾油体験の会場ですが、技術室を使おうと考えています。（授業で４０人ぐらい入ります。）機械を入れて２０人ぐらいは入れると思います。

椿の実ですが、委員長が「集めたい」とポスターを作って呼びかけをしています。





椿の実、いっぱい集まりました！
すごいね。



2015年10月5日（月）

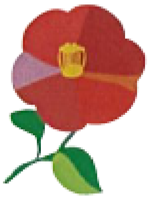
「鹿にも負けず・・・椿の実集め」

椿の実は学校周辺にもあると思ったのですが、低いところは鹿が食べて高いところしか残っていませんでした。
学校に週2日いらしている美術の先生の話では、今でも椿の油を絞って天ぷらなどをあげるよといわれました。
そんな話を集めてみたいですね。

資生堂から送った椿の実の回収箱です。
フリフリ仕様、リボン付きです。
大切に扱ってくれてありがとう！

2015年9月29日（火）　「椿の実、収穫スタート」

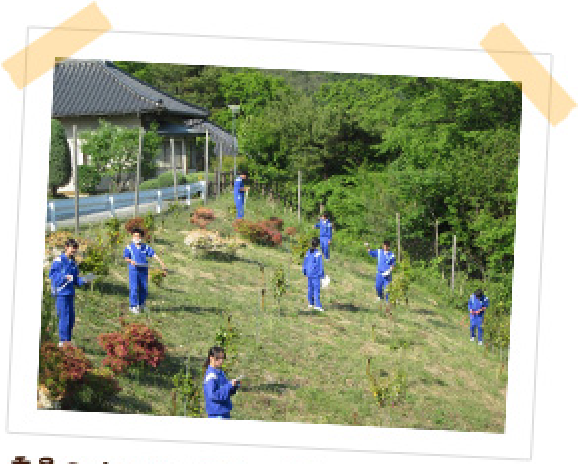
今日の委員会の時間に椿の実の収穫を行いました。
見にくいですが、生徒のもっているビニール袋は今日の給食のパンの袋です。
一人４枚集めてもってきました。これもリサイクル（？）かな。



2015年6月3日（水）

「椿の身体測定」

運動会は雨で順延したり、野球の県大会があったりと何かと忙しいです。
この前の専門委員会の時間に、椿の「身体測定」を行いました。
最初なのでちょっと戸惑っている生徒もいました。



委員のメンバーで椿の「身体測定」

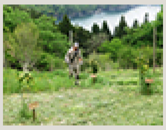
メジャーで椿の成長をチェック！

どうやって測ればいいのかな…

椿の水やり＆アートです。

椿の水やり＆アート

LOVEかな



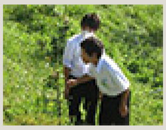
2015年5月14日（木）　「用務員さん、ありがとう！」

今週末に運動会を予定している本校は、天気に一喜一憂しています。
ほとんどの椿は花を落としてしまい、少しだけしか残っていませんでした。
用務員さんに椿のまわりの草刈りをしていただき、すっきりしました。

2014年度

2014年11月28日（金）　「鹿に食べられた・・」

椿が鹿の食害にあっています。
ネットは針金入りの丈夫な物なので安心していましたがかみ切ったようです。
用務員さんに応急措置はしてもらいましたが、今後もあるかもしれません。
出来ることはやりたいと思いますが、今度来た時に見てください。



2014年9月4日（木）　「ピッカピカの椿の実」

椿がきれいな実をつけました。学校で飾っています。
生徒は椿の計測を行っています。

大きくなったかな？

ピッカピカの椿の実

椿の成長を計測！

もっともっと大きくなりますように

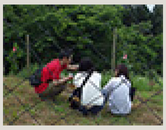
2014年7月2日（金）　「苗木の植え替え」

by資生堂

世界の椿館　林田館長さんが枯れてしまった苗木を２本植え替えてくださいました。
この苗木は、昨年の６月に長崎県の新上五島町から贈られたもので、
林田館長さんが１年間大切に育ててくださったものです。

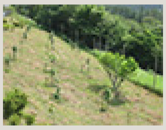
大きく育ってね！

植え替えていただいた元気な苗木



2014年6月27日（金）　**「ショック・・」**
by資生堂

資生堂チームが現地に入り、葉っぱをチェック！
葉が茶色に変色して枯れてしまったものや、穴が開いているもの、様々な状態が見られます。
幹にアリンコがいっぱい付いている木や、黄色い毛虫がついているものもありました。
これは、害虫のせいかなぁ・・・と想像しながら、これ以上大きく育てるのは難しいかも、、、
と思われる苗木もあり、専門家に相談することにしました。
２０１２年９月１１日に植樹をしてから２年９カ月、生徒さんと一緒にここまで育ってきたのに・・・



2014年6月26日（木）　「オブジェ如雨露」

今日の大船渡は快晴です。
こんな日に生徒達は1日期末テストで机にしがみついています。
そんな中、今朝も椿の水やりをしていた２年生が慌てて教室に戻ったのでオブジェのように如雨露を１つ置き忘れていました。
用務員さんに草刈りをしていただいてとてもきれいになりました。
椿の育成について「どうして枯れてしまったのか？」明日相談させてください！！

きれいにスッキリ！用務員さんありがとう！

オブジェ？！置き忘れた如雨露でした

2014年6月2日（月）

「大丈夫かな・・」

今日の椿の水やりで気がついたのですが、葉っぱの変色した椿が２株ありました。
大丈夫かな・・とみんな心配しています。今度来校したときに確認してみてください。

葉が黄色に・・・

こちらの株は茶色に・・・大丈夫かな・・・

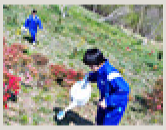
2014年5月29日（木）

「雨が止んで水やり開始！」

この日は午前中雨で、昼休みに雨がやんだので、
友達を誘って水やりをしている３年女子生徒です。

雨がやんで水やり開始！

お友達と一緒に楽しく！

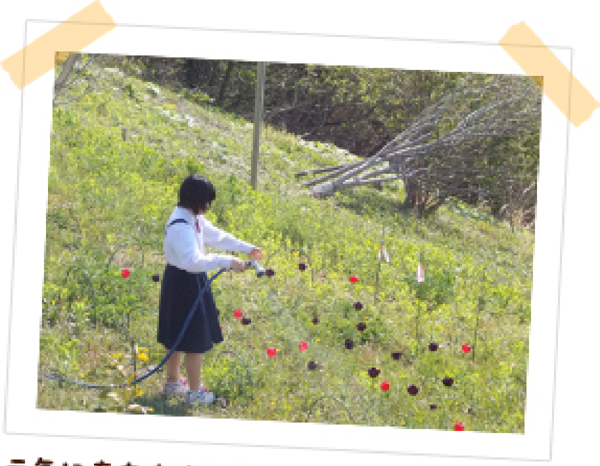


2014年5月28日（水）　「命を燃やして？水やり」

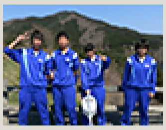
今月は「運動会」もあり、バタバタしていました。
その中でも整備安全委員会の生徒は「椿の水やり」に命を燃やして？います。
前の日雨が降っていても「水やり」したり、朝雨が降っていても昼に晴れると「水やり」にいったり、
一種のレクリエーションになっているようにも感じます。

整備安全委員会の生徒は命を燃やして？！
水やり

雨の日以外は必ず水やりをします

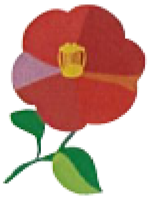


元気に育ちますように！



2014年4月24日（木）　「メンバー決定！」

今年度の整備安全委員のメンバーが決まりました。
３年生は、修学旅行などもあり、昨年度のメンバーがそのまま残留します。
２年生は、クラス替えなどがあり改変しましたが、そのままのメンバーが引き続き立候補しました。
椿の世話などにやりがいをもって活動してくれているのかとうれしく思います。



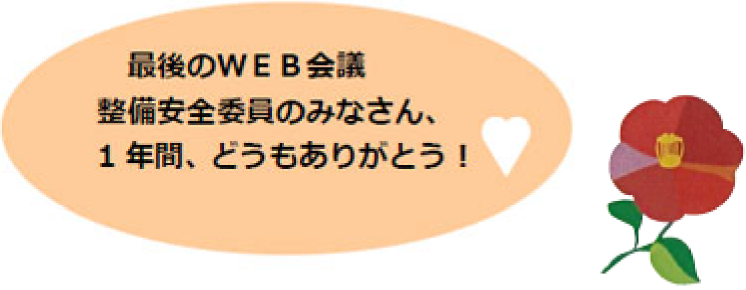
2013年度

2014年2月28日（金）　「またまたレスキュー」

椿の斜面の雪もすっかり溶け春を思わせる陽気になってきました。
斜面の土の下が砂利になっているため、雪囲いの支柱が奥まで刺さらなかったようです。
今日は用務員さんにも手伝ってもらってレスキューしました。

2014年2月24日（月）　「最後のWEB会議」

いつもお世話になっております。赤崎中学校 高橋です。
日当たりのいい、椿の斜面の雪は消えましたが、まだまだ雪が残っている岩手です。
今日も雪かきで腰が痛いです。とほほ・・・
先日の「椿WEB会議」ありがとうございます。
資生堂さんから送っていただいたBigサイズの感謝状には驚きました。

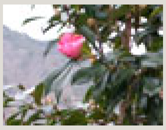


2014年2月17日（火）　「強風で雪囲いが・・・」

いつもお世話になっております。赤崎中学校 高橋です。毎週末、寒波で大変ですね。
電車が止まったというニュースを見ました。大丈夫だったでしょうか？
岩手は、慣れていても雪かきが大変でした。
今回の雪はそれほどではありませんでしたが、
強風の影響で椿の雪囲いが２カ所飛ばされていました。
昼休みに２年生の整備安全委員が修復（？）しました。

2014年2月12日（水）　「東京もすごい雪」

東京もすごい雪でしたね。岩手は雪に慣れていますが、大船渡は沿岸なので年に何回かしか根雪になりません。
今週は、整備安全委員は大活躍です。体調を崩していた委員長も復帰しました。

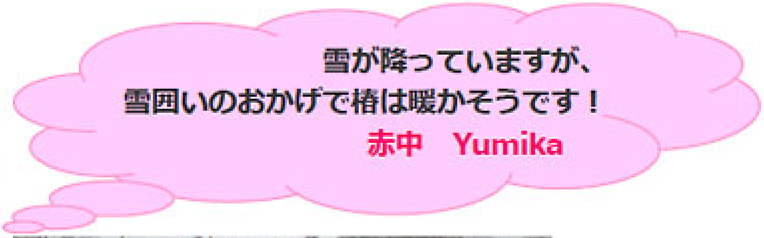


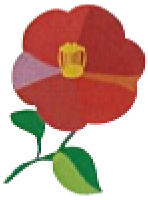
2014年2月4日（火）　「椿の開花」

今週は暖かいですね。学校の周りにも椿の木がたくさんあります。
体育館の脇の椿（寒椿？）がこの暖かさで花をつけています。

2014年1月31日（金）　「雪景色」

午後から赤崎は雪景色になりました。
※今回から、赤崎中学校の生徒さんのコメント入りです。

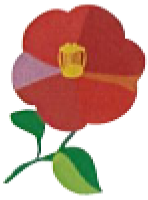




2013年12月18日（火）　「雪囲い」
by資生堂

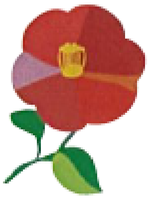
今日は、赤崎中学校の整備安全委員の生徒さんと資生堂チームと一緒に昨年植樹した椿が無事冬を越せるように、雪囲いを装着する作業を行いました。
先週までは雪が降っていた大船渡でしたが、今日は晴れ間も見えて、日差しに温もりが感じられる中、世界の椿館・林田館長のご指導のもと、みんな元気で作業を行いました。

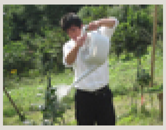
雪囲いを外すころには、
きれいなお花がさくかな・・・



2013年10月17日（木）　「昨日の台風」

昨日の台風は大変でしたね。赤崎中は臨時休校でした。
今朝の学校の周りは、落ち葉だらけでした。
椿の斜面は、周りの木が根本から倒れていました。
幸い椿は、背丈が低かったので被害はありませんでしたが、椿を支える支柱が何本か折れてしまいました。
雪囲いに使うものだと思いますが、今度いらしたときに見てください。





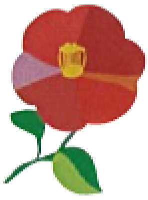
2013年9月10日（火）　「椿の生長」

椿は生長が大きくないので、劇的な変化は見られませんが、植え替えした椿と比べると生長の度合いが分かってうれしいです。
椿の実がついている木が一本だけそれも2つもこれをどうしたものか？？？
次のWEB会議の議題にしてもおもしろいかもしれませんね。

東京は相変わらず暑い日が続いているようですね。
大船渡は、昨日今日は暑さが戻ってきました。 今日の朝の水やりの様子です。
2人の生徒が張り切ってやってくれました。

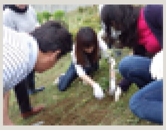
2013年8月2日（金）　「夏休み中の水やり」

久しぶりにメールするような気がします。
東京は暑い日が続いているでしょうか。
こちらは梅雨明け宣言がまだ出されていない状態でパッとしない天気が続いています。
夏休み中の水やりも雨降りの関係で部活が学校で行えない人も多く、生徒がせっせとやっています。
本人曰く「体力作りにちょうどいいです」とのことです。



2013年7月11日（木）　「天候不順で・・」

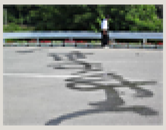
東京は暑そうですね。大船渡はこの頃ぐずついた天気です。
朝晴れたと思ったら、昼頃から雨になるということの繰り返しです。
委員会の生徒も水やりをする機会がなくて、寂しそうです。
前日雨で濡れていても、朝晴れていると水やりをしている生徒たちです。
明日、大船渡ですね。雨具の準備をお忘れなく！



2013年6月28日（金）
by資生堂

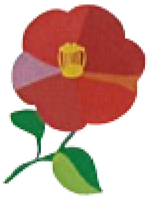
「苗木の植え替え」

今日は、資生堂チームとみちのくふる里ネットワークのメンバーで、かねてから気になっていた枯れてしまった椿の植え替え作業を行いました。
気温13度、少し肌寒い中での作業となりましたが、みんな元気いっぱい、今度こそ元気に育ってね！という想いで作業を行いました。 途中、教室から生徒さんが顔を見せて「ありがとうございます！」と声をかけてくれて、感激！
また、椿の根っこを確認したところ、前回のWEB会議でお願いした、刈った草で根の周りを囲む、敷き藁がしてあって、またまた感激！みんな、ありがとう！



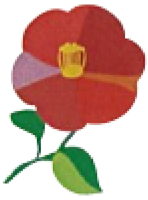
2013年6月25日（火）　「水まきアート」

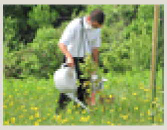
昨日はありがとうございました。生徒たちは、初めての体験でうれしかったようです。
将来資生堂に就職したい生徒も出てくるかもしれません。 今日も大船渡はいい天気です。用務員さんが下草を刈ってくれました。
2時間で半分くらいでした。午後から残りをやってくれるそうです。
朝からテンションの高い2年生は「水まきアート」なるものをしていました。
（その中のひとりが38.4℃の熱で早退しました。朝は何ともなかったのに・・・）



2013年6月24日（月）　「初めてのWEB会議」

WEBミーティングありがとうございました。生徒たちも緊張していました（始まる前はもっとはしゃいでいたのに）
準備不足であまり質問も出なかったのですが、それが普段の姿です。申し訳ありません。
またよろしくお願いします。





2013年6月14日（金）　「タンポポ畑？」

今日の大船渡は、久しぶりに青空が見えました。（午後は雲行きが怪しいですが）
整備安全委員の生徒も久しぶりの水やりでした。
隣でボランティア委員会生徒がアルミ缶回収をやっていて、その中の女の子が、水やりを手伝ってくれました。
「普段は椿の水やりをする機会がないので、楽しかったです。」と笑顔で答えてくれました。
写真に写っているでしょうか？
タンポポの花がきれいに咲いています。
きれいなんですが雑草なんですよね・・・

タンポポがいっぱい。
かわいいね。

ボランティア委員会の
生徒さん

2013年6月11日（火）　「元気いっぱい　2年生！」

昨日はありがとうございました。（⇒WEB会議のテストのこと）
委員長も楽しそうに参加していたのが印象的でした。
今日の大船渡は、予報は28℃ですが、現在は18℃（やませが入って）です。
日中も上がりそうもありません。

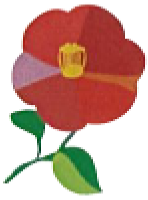
2年生女子の水やりの生徒です。
「水やりがんばりました。」
と明るく話していました。

2013年6月6日（木）　「山背（やませ）」

今日の大船渡は、朝はお日様が出ていましたが、日中は靄（この地域では「やませ」と呼ばれています）が出て、肌寒く感じられました。
その中で生徒は、1・2年は大曲中から頂いた花の水やり、3年生は椿の水やりを元気に行っていました

1･2年生の生徒さん

3年生の生徒さん

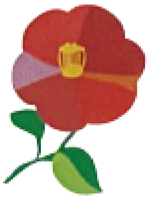


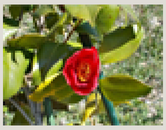
2013年6月4日（火）　「今日も快晴」

大船渡も昨日今日といい天気が続いています。
太平洋を見ながら授業するのはとてもいい気持ちです。
生徒達の水やりもこの天気だと気分良くやっているようです。

2013年5月30日（木）　「生徒の思い」

今日の大船渡は、霧です。朝の水やりが出来ないで生徒達は残念がっています。
追伸： 生徒は椿が・・・という気持ちで、水やりをしているそうです。（写真の3人からのコメントです





2013年5月23日（木）　「椿が咲いた！」

今朝も大船渡はいい天気です。
生徒も元気に水やりをしていました。
椿も一輪咲いています。

2013年5月22日（水）　「整備安全委員の活動」

大船渡は今日もいい天気です。
今朝も委員会の生徒が、いい表情で水やりをしていたのでお送りします。
「水やり楽しいか？」「楽しいです！」と元気に返事をしてくれました。

© 1995-2018 Shiseido Company, Limited All Rights Reserved.